

玉川上水・分水網関連遺構 100 選の評価と冊子・展示資料等の作成

2020年

辻野 五郎丸

中央大学工学部都市環境学科共同研究員

共同研究者

谷下 雅義

木下 剛

鈴木 利博

はじめに

この報告書は、2018年度一般助成研究「玉川上水・分水網の保全再生とフィールドミュージアムの展開に関する調査」の結果を市民団体の方々が受け継ぎ活用していただくために、2019年度「玉川上水・分水網関連遺構100選の評価と冊子・展示資料等の作成」として図版類をとりまとめたものです。

2018年度調査は、玉川上水・分水網の自然、歴史文化的価値を未来につないでいくため、玉川上水・分水網を舞台としたフィールドミュージアムの展開の可能性について調査・提案することを目的としました。

この提案を受け、玉川上水域研究会では玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会（代表山田正・中央大学教授）と連携して玉川上水・分水網の保全再生の道を探るとともに、市民団体の方々と協働して関連遺構の文化財としての価値を共有するための活動を進めてまいりました。

これらの活動を通して、玉川上水の羽村から四谷大木戸さらに外濠・日本橋川に連なる水の大動脈や分水毎に今もなお大切に守れている遺構の広がりが浮かび上がってきました。

これらの調査が玉川上水・分水網の保全再生に寄与できれば望外の喜びとするところです。

2020年3月

玉川上水域研究会代表 辻野 五郎丸

目次

はじめに

1. 玉川上水・分水網をめぐる状況	
(1) 玉川上水の保全再生と市民活動の展開	1
(2) 玉川上水・分水網の水利と水循環	5
2. 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の概要	
(1) 玉川上水・分水網関連遺構選定の目的	9
(2) 玉川上水・分水網関連遺構選定の手順	9
(3) 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の選定	11
3. 関連遺構 100 選の特徴と評価	
(1) 水系に共通する遺構の概要	17
(2) 本線・分水に関連する個別的遺構の分布	27
4. 今後の展開の方向	
(1) 玉川上水系（玉川上水・外濠・日本橋川）の保全再生	36
(2) 玉川上水域関連遺構の保全・再生と活用	40

1. 玉川上水・分水網をめぐる状況

(1) 玉川上水の保全再生と市民活動の展開

玉川上水は、1965（昭和 40）年の淀橋浄水場の東村山浄水場への拡張移転に伴い、中下流部の流水は激減し大きく変貌する。この間の玉川上水の保全再生の主な施策を整理すると図表 1-1 となる。

年号		項目
大正 13 年	1924	小金井（サクラ）国名勝史跡指定
昭和 40 年	1965	淀橋浄水場廃止（羽村-小平監視所まで通水）
昭和 48 年	1973	野火止用水歴史環境保全地域指定
昭和 59 年	1984	野火止用水清流復活事業
昭和 60 年	1985	千川上水清流復活事業
昭和 61 年	1986	玉川上水清流復活事業
平成元年	1968	東京都清流復活全体計画
平成 6 年	1994	TAMA らいふ 21（玉川上水分科会）
平成 9 年	1997	玉川上水の緊急放流に関する協定（水道局・消防庁）
平成 11 年	1999	国有財産（里道・水路）の市町村への移譲
平成 11 年	1999	玉川上水歴史環境保全地域指定
平成 11 年	1999	東京都水循環マスタープラン
平成 12 年	2000	緑の東京計画
平成 14 年	2002	東京都環境基本計画（新）
平成 15 年	2003	玉川上水 国史跡指定
平成 16 年	2004	文化財法改正（重要文化的景観制度の創設）
平成 19 年	2007	史跡玉川上水保存管理計画
平成 21 年	2009	史跡玉川上水整備活用計画
平成 23 年	2011	東京都景観計画（玉川上水景観軸）
平成 24 年	2012	玉川上水サミット・中流域（世界遺産の可能性）
平成 27 年	2015	玉川上水緑道マネジメントプラン
平成 27 年	2015	玉川上水・分水網を世界遺産・未来遺産へシフト
平成 27 年	2015	水循環都市東京 5 大学リレー（外濠）
平成 28 年	2016	玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会 第 1 回シフト
平成 29 年	2017	玉川上水ネット・未来遺産登録

図表 1-1 淀橋浄水場移転後の玉川上水保全再生関連年表

このような施策の変容の動機は、玉川上水という水利施設が水利の実態を喪失していることから内発的な要因は少なく、もっぱら玉川上水とその周辺環境の変容と人々の玉川上水に向かられる眼差しの変化に求められる。

このため、施策と玉川上水変容の過程と市民活動の動向を合わせ整理すると次の3段階に区分してとらえることができる（図表 1-2 参照）。

第1期：昭和40年～昭和63年頃

玉川上水の通水停止に合わせ新宿～杉並の区間では管路を暗渠化し、上部を公園・道路等とする整備が始まる。これに対し三鷹市・武蔵野市民はいち早く玉川上水路の埋め立て反対、保全活動に取り組んだ。さらに、昭和50年には分水への通水も停止され、水路壁面の乾燥による崩落や藪化・樹林化が進む。このために、水路への流れの復活が期待され、1984（昭和54）年から下水道高度処理水による野火止用水・千川上水・玉川上水の清流復活事業が行われる。この間の経緯は「玉川上水文化財調査報告 2-3 現代の玉川上水（大石裕）東京都教育委員会平成4年」に詳しい。

第2期：平成元年～平成24年頃

急速な市街地化とインフラ整備の立ち遅れなどもあり、都市の中の河川・水路等の見直し、再整備の機運が急速に盛り上がった時代でもある。例えば、福岡県柳川の堀割再生、東京江戸川区の古い用水路を生かした親水公園計画等が全国的に喧伝された。

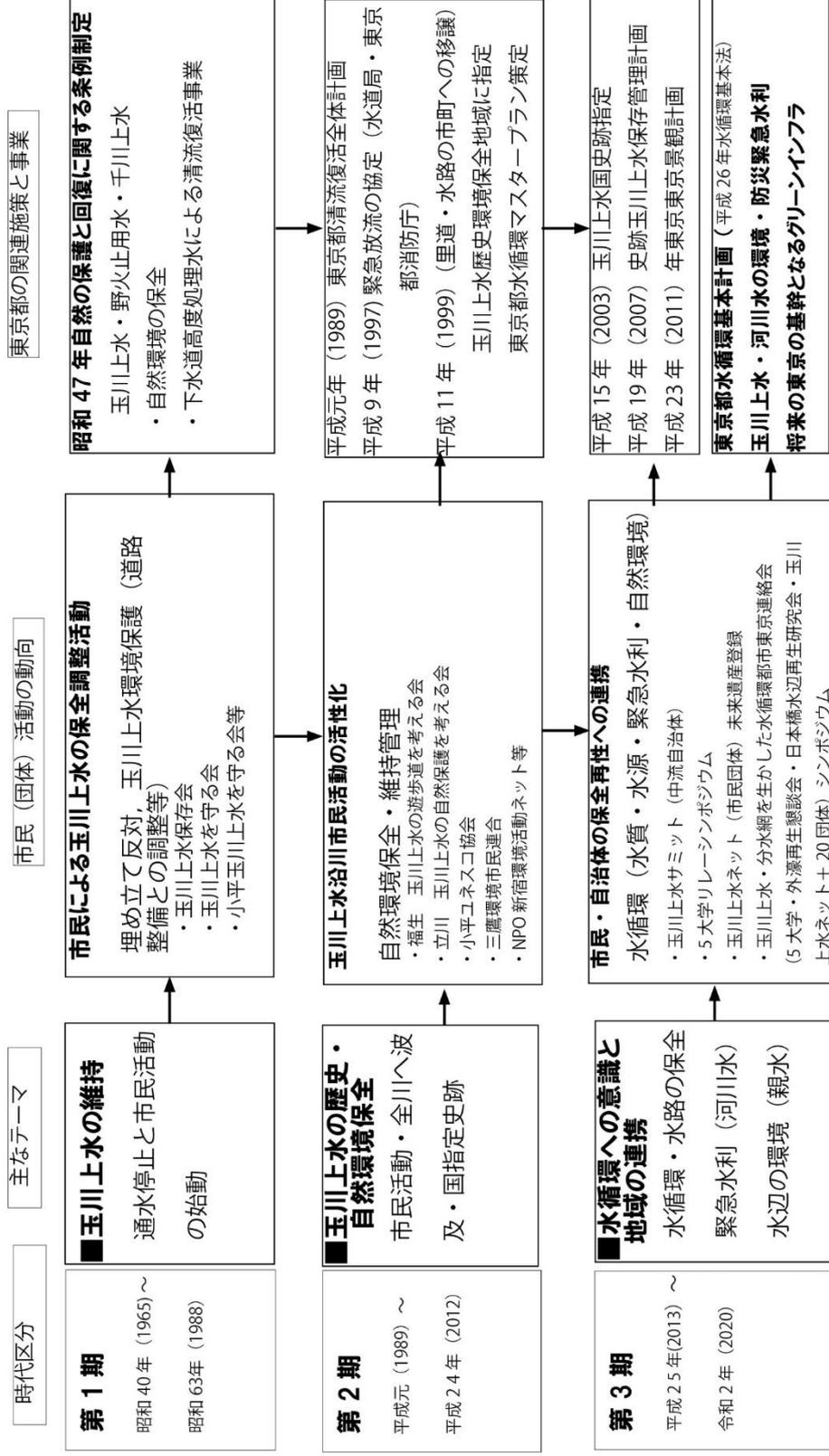
玉川上水でも熱心な市民活動を追い風として、清流復活、国史跡指定さらに緑・景観に関連する多様な計画が策定された。ただし、計画の範囲は玉川上水の水路と周辺環境に限定されており、しかも既往の制度的枠組による整備であるため、空間は柵等により分節化され管理も複雑化する傾向にあった。

第3期：平成20年～令和2年

こうした中で、平成19年に小平ユネスコ協会は市民連続講座「玉川上水を世界遺産へ」を開催さらに、平成24年には中流区間の区市長が集まり「玉川上水サミット」を開催した。これにより、玉川上水は江戸・東京の水道施設の遺構としてだけでなく自然・歴史文化資産であるとの評価へと大きく変貌する契機となった。この動きは平成26年に制定された水循環基本法の制定が追い風になった。

一方、四谷見附の外濠発掘を契機として書かれた、北原糸子「江戸の城づくり」

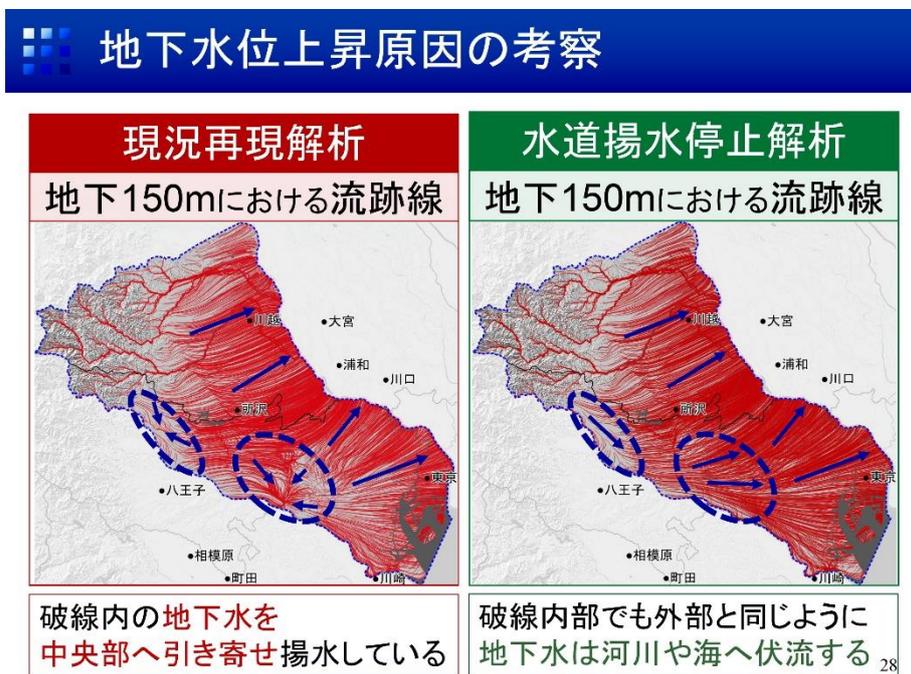
（2012 ちくま学芸文庫）には『玉川上水は外堀構築18年後の承応3(1654)年に完成されたとしている。この水は従来上水としての側面にもっぱら関心が注がれていた。しかし、外堀にも余水吐き口が設けられていることから、堀用水で



図表 1-2 玉川上水の保全再生と市民活動

もあったわけである。このことは、外堀の発掘を通して再認識された点である』。かくして、玉川上水は単なる開渠水路と上水の役割だけでなく、お濠の環境用水、さらに都心の神田川、日本橋川へ連なる維持用水等としても重要な役割を担っていたことが再評価されるに至った。

また一方では、玉川上水の役割について、玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の第4回シンポジウム基調講演「武蔵野台地の水循環（東京都市大学 河村明教授）」の中で統合型地圏水循環シミュレーション（GETFLOWS）による解析結果を踏まえながら、武蔵野台地の地下水の変動と水循環を一体的捉えることが不可避であることが報告され、分水網の役割についても再評価する機運が高まりつつある（図表1-3参照）。



図表1-3 「武蔵野台地の水循環の中で統合型地圏水循環シミュレーション（GETFLOWS）による解析結果（東京都市大学 河村明教授）」
 （出典：第4回玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京シンポジウム資料）

(2) 玉川上水・分水網の水利と水循環

①玉川上水系の流れ

玉川上水は言うまでもなく江戸市中への上水の大動脈であった。そして江戸市街地の外縁部である四谷大木戸までは開渠、そこから暗渠で江戸市中に配水されていた。また、江戸城総構では、外濠の四谷見附付近の標高が最も高く、竣工時には空堀であったと推測され、濠の実質的な完成は玉川上水からの導水を待ねばならなかった、岡本哲志「江戸城の最強要塞はこうしてつくられた」東京人外濠を歩く 2019 ①参照)。つまり、玉川上水は計画の当初から外濠、内堀さらに、右回りの弁慶濠・溜池、左周りの市ヶ谷濠、見付濠さらに下流の神田川、日本橋川の維持用水としても重要な役割を担っていたことが推測される。このことは、玉川上水中下流区間の上水機能が失なわれても、都心部の水環境にとっては維持用水の供給という役割が改めて再評価されるゆえんでもある。このために、100選の遺構選定にあたっては、羽村から隅田川に至る玉川上水の流れに沿って遺構を選定しその関連性を再評価、啓発することとした。

こうした羽村から都心を貫き隅田川に至る水の流れをここでは「玉川上水系」と呼ぶこととする（図表 1-4 参照）。

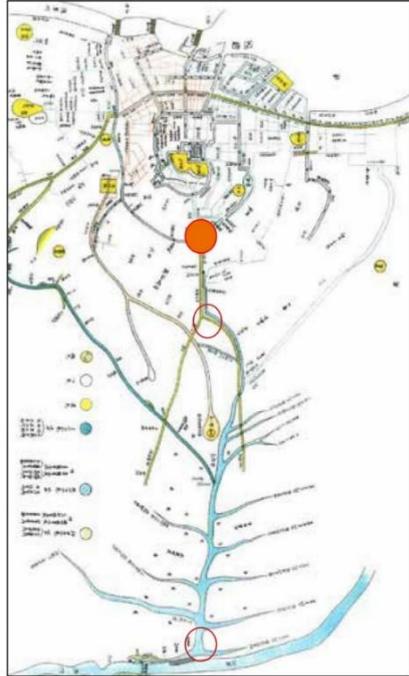
1. 江戸城総構と玉川上水（江戸時代に形成された水の基本システム）

江戸城惣構（1601～1639）と玉川上水（1653～1654）

江戸城惣構・外濠開削が終わった直後に玉川上水が開削された。玉川上水と外濠の接点は四谷見附。これにより江戸・武蔵野の水の基本的な構成ができあがる。

江戸城惣構

- 第1次天下普請 慶長10～13年（1601～1608）
 - ・ 神田川放水路
 - ・ 道三堀
 - ・ 日本橋川開削
 - ・ 日比谷入江埋立
- 第2次天下普請 慶長16～19年（1611～1614）
 - ・ 平川放水路
 - ・ 外濠延伸
 - ・ 日本橋川河口
 - ・ 河岸造成
 - ・ 内濠造成
 - ・ 外濠造成 寛永13～16年（1636～1639）
- 玉川上水 承応2年～3年（1653～1654）開削
 - ・ 羽村 - 四谷大木戸：開水路
 - ・ 四谷大木戸 - 四谷見附：暗渠
 - ・ 外濠へ



正徳年間（1711～1714）玉川上水図 ■開削 承応3年（1654）



寛永江戸図 ・江戸惣構え外濠造成、完成後

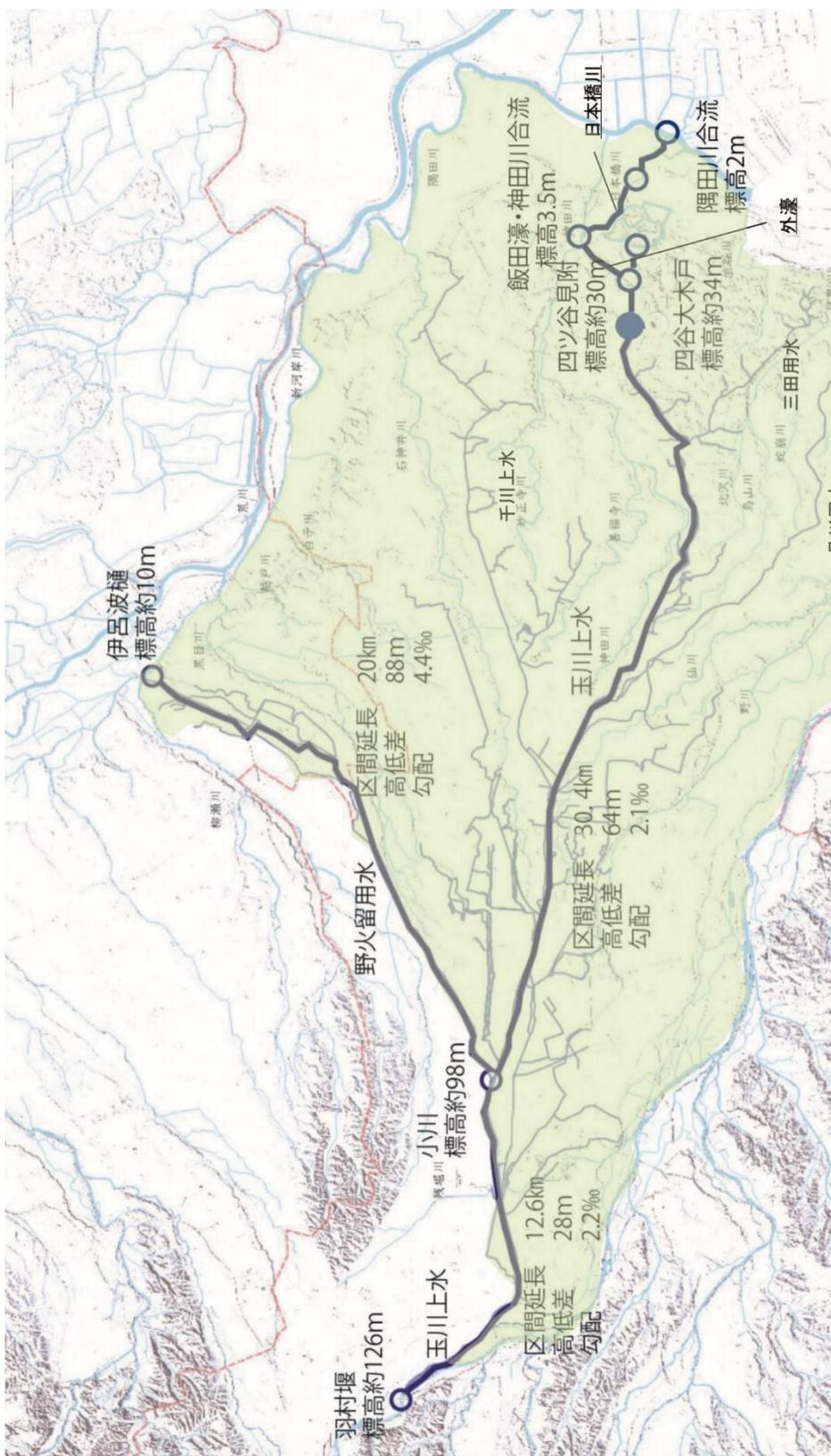
図表 1-4 江戸城総構と玉川上水系

②玉川上水域の広がり

羽村から四谷大木戸までの開渠区間は幹線導水路として維持・管理され、台地上の水利は、明治初期の船運事業を除きすべて分水路を経由して行なわれていた。

分水路は玉川上水開削以来、時代とともに徐々に増え、1791（寛文3）年に作成された「上水記」には33の分水が記されている。この武蔵野台地に網目状に張り巡らされた分水こそが武蔵野台地の新田開発や大名屋敷の池泉の源泉でありさらに、大地に浸透し湧水あるいは中小河川の維持用水となり、武蔵野台地と周辺の低地の水循環を支えてきた。

これらの分水に育まれた自然、歴史文化の多様性こそが玉川上水・分水網の大きな特質として挙げるができる。このような分水網に育まれた自然・歴史文化の痕跡は分水路の改廃とともに徐々に失われつつあるが、まだ各所に点在しており、これらを発掘、再評価し玉川上水・分水網によって築かれた歴史文化を継承することが大きな課題でもある。このような玉川上水・分水網によって形成された水循環と分水に関連する遺構が分布するエリアを「玉川上水域」としてとらえた（図表1-5参照）。



図表 1-5 玉川上水・分水網・玉川上水系と玉川上水域

2. 玉川上水・分水網関連 100 選の概要

(1) 玉川上水・分水網関連遺構選定の目的

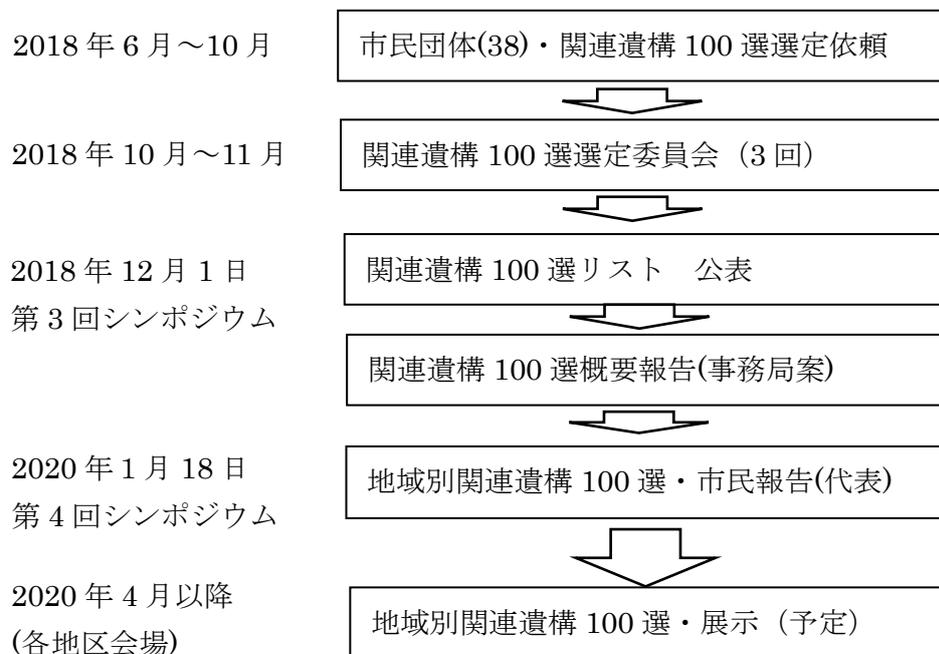
関連遺構選定の目的については、「2018 年度玉川上水・分水網の保全再生フィールドミュージアムの展開に関する調査（玉川上水域研究会）」では次のように触れている。

『玉川上水・分水網は羽村堰を頂点として武蔵野台地を樹柱状に展開するため低地・下町へと連なる土地に刻まれた水循環と情報のネットワークとしても見ることができる。このような視点から各地域に刻まれた玉川上水・分水網の関連遺構や現地の流路の痕跡等をたどれば、玉川上水・羽村堰へと連なる土地に刻まれた生活や生業によって育まれた歴史文化の壮大なドラマを実感できるのではないか。このプロジェクトは、地域で玉川上水・分水網に関連して調査・活動している多くの市民（団体）が発掘した情報を持ち寄り、玉川上水・分水網の水路系統と関連遺構を全体で約 100 点に絞って選定し顕彰、さらに共有化を促すことを目的としている。』

このために、羽村から四谷大木戸さらに、外濠・日本橋川・隅田川を結ぶ玉川上水系に沿った遺構および、玉川上水から地域に注ぐ分水により形成された玉川上水域の遺構を関連遺構を 100 選として選定した。

(2) 玉川上水・分水網関連遺構選定の概要

関連遺構 100 選の選定は概ね、図表 2-1 に示す手順で進めた。



図表 2-1 玉川上水・分水網関連遺構 100 選選定手順

100 選選定に参加いただいた団体は図表 2-2 に示す 38 団体である。ただし、この団体の中には神田上水、田柄用水関係の団体が欠落しており、今後の調整課題となっている。

また、選定委員には分野別に 7 名の先生方をお願いした（図表 2-3 参照）。

区分	活動区域	名称
未来遺産登録団体 玉川上水ネット	福生市	玉川上水遊歩道を考える会
	立川市	玉川上水の自然保護を考える会
	東大和市	玉川上水野火止水ネットワーク
	東久留米市	NPO 中国健康法普及会
	小平市	小平ユネスコ協会
		玉川上水を守る会
		みどりともみずのつながり市民会議
		学び舎江戸東京ユネスコクラブ
		小さな虫や草やいきものたちを支える会
		玉川上水ストーリーテラーズ
		小平井戸の会
	小金井市	小金井玉川上水の自然を守る会
	西東京市	東京ホテル会議
	武蔵野市	武蔵野ユネスコ協会
		玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会
		武蔵野の森を育てる会
	三鷹市	住みよい環境をつくる三鷹市民の会
		井の頭の歴史を知る会
		三鷹市環境市民連合
		井の頭バードリサーチ
杉並区	玉川上水・すぎなみの会	
	玉川上水再々発見の会	
	久我山緑の散歩道	
渋谷区	渋谷川・水と緑の会	
新宿区	NPO 新宿環境活動ネット	
一般団体	埼玉県	新河岸川水系水環境連絡会
		野火止水水を守る会
	国分寺市	美しい用水の会（ミズモリ） NPO 国分寺まちづくりセンター
	世田谷区	NPO 世田谷環境学習会
	板橋区	板橋史談会
	北区	北区史を考える会
	豊島区	渠鴨庚申塚のまちづくりを考える会
	文京区	文京文化資源リサーチ倶楽部
	品川区	グリーンインフラ品川
		品川用水復活研究会
千代田区	外濠再生懇談会	
中央区	日本橋水辺再生研究会	

図表 2-2 100 選選定参加市民団体

<p>■選考委員長</p> <p>西村 幸夫：歴史文化遺産保全（プロジェクト未来遺産委員長・神戸芸術工科大学教授）</p> <p>■選考委員</p> <p>鼎 信次郎：河川工学・水文学（東京工業大学理工学部教授）</p> <p>知野 泰明：土木史（日本大学理工学部准教授・土木学会土木史委員会委員長）</p> <p>真下 祥幸：多摩の歴史と文化（東京都江戸東京博物館学芸員）</p> <p>開発 法子：自然環境（前日本自然保護協会事務局長・リスの家代表）</p> <p>小坂 克信：武蔵野台地の水利用：（産業考古学会理事・水車と臼分会代表、立川市史編さん委員）</p> <p>山本 泰人：江戸の水文化・下町（日本橋再生推進協議会水辺再生研究会代表）</p>
--

図表 2-3 100 選選考委員

(3) 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の選定

①玉川上水・分水網関連遺構の応募状況

38 の市民団体に対し担当区間内で約 10 点の関連遺構を抽出してもらい、そのうち特に重要と思われる遺構を 3 点指摘いただいた。指摘された遺構の重複などを整理した結果、本線（玉川上水系）関係 100 点、分水（玉川上水域）関係が 140 点の計 240 点となった。このうち 98 点が重要遺構としてあげられていた(図表 2-4 参照)。

区分	区間・水系	関連遺構数	重要遺構数	摘要
本線	全区間	1	0	
	I. 玉川上水上流	18	8	
	II. 玉川上水中流	30	15	
	III. 玉川上水下流	26	16	
	IV. 外濠	19	5	
	V. 日本橋川	6	4	
	小計	100	48	
分水	1. 上流5分水	16	7	
	2. 砂川用水系	34	13	
	3. 野火止用水	16	3	
	4. 小平用水系	21	9	
	5. 千川上水上流	22	8	
	6. 千川上水下流	4	4	
	7. 品川分水・牟礼分水	12	2	
	8. 三田用水	13	2	
	9. 神田上水助水堀	2	2	
	小計	140	50	
合計		240	98	

図表 2-4 100 選遺構の応募数

②100 選の選考

市民が選んだ遺構 240 点、重要遺構 98 点を基本として、次の方針で選定すべき遺構の再整理を行った。

- ・選考委員の先生方が重要遺構として取り上げるべきとの指摘のあった遺構の追加。
- ・地域的なバランス等を考慮して選定するべきと指摘のあった遺構を事務局事務局として補足。
- ・玉川上水本線関係で分水口や自然生態系など玉川上水系全体として選定した遺構の系統的整理。

この方針に基づき、市民の方々が重要遺構として選定した 98 の遺構(各 1 点)と選考委員長を除く 5 名の先生方の指摘を加え、複数票を得た遺構を 100 選遺構として選定した。この結果 106 点の遺構が挙げられたが、最終的

に類似の遺構などを統合し 100 選遺構として確定させた。

この結果は、玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡界第 3 回シンポジウム(2018 年 12 月 5 日 於・法政大学)で公表され、約 250 名の参加者によって採択された。採択された遺構の内訳は図表 2-5、その分布は図表 2-6 に示すとおりである。経緯と評価については「第 3 回シンポジウム記録集」に掲載されているので参照いただきたい。

なお、玉川上水本線の全区間として統合した項目は次の 5 項目である。

- ・玉川上水素掘水路：玉川上水の史跡となっている開渠区間
- ・水路沿いの自然生態系：沿川の市民団体、自治体が野草等の保全活動を行っている区間
- ・玉川上水分水改正と分水口遺構：明治 3 年の分水改正以降に整備され分水口の遺構
- ・玉川上水水番所(屋)・水衛所：江戸時代以降に玉川上水本線管理のために現地に整備された芥等の土揚場、管理所等
- ・玉川上水通船遺構：明治 3 年から 5 年にかけて実施された、玉川上水通船事業の河岸場等の遺構

これらの 100 選遺構と分布図は、2020 年 1 月 18 日の玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会第 4 回シンポジウムで概要パンフレットを配布するとともに主要市民団体に 100 選に採択された遺構の解説をお願いした。解説の概要は「第 4 回シンポジウム記録集」に掲載予定となっている。

区分	区間・水系	件数
玉川上水本線	全区間	5
	I 玉川上水上流	7
	II 玉川上水中流	12
	III 玉川上水下流	7
	外濠	7
	日本橋川	5
分水	上流分水	9
	砂川用水系	11
	野火止用水	9
	小平用水系	9
	千川上水	11
	品川用水	3
	三田用水	4
	他	1
計		100

図表 2-5 100 選に採択された遺構数

■玉川上水と関連遺構

玉川上水は、江戸の城づくりである江戸総構と外濠が竣工した後に、江戸城下の上水供給を目的として開削された水路である。多摩川から羽村で取水し四谷大木戸までは開渠で、そこから江戸城までは暗渠で導水された。また、外濠・内濠の維持用水やその後に開削された多くの分水により、武蔵野台地の新田開発にも大きく寄与した。さらに、その水は多くの池泉を養いまた、地下に浸透して湧水、中小河川の養水となり、水の都江戸・東京の基盤となっていた。

この玉川上水・分水網の構成は昭和40年頃までは維持されていたが、水需要の増大等に対応するための淀橋浄水場移転、分水の水利用停止等に伴い大きく変貌し、改廃された。しかしながら、かつての水利用の痕跡は地域の中でわずかながらも残り、語り継がれ維持されてきた。

100選遺構選考の目的は、こうした遺構を水系ごとに発掘し共有化を図ることにより、かつての玉川上水・分水網の広大な記憶を蘇らせることにある。

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会の構成

- 代表 山田正(中央大学教授)
- 水循環都市東京シンポジウム実行委員会
総括実行委員長 山田正(中央大学教授)
 - 玉川上水・分水網保全再生連絡会
代表 田畑貞壽(千葉大学名誉教授)
 - 未来遺産登録団体 玉川上水ネット 代表 西村弘
 - 日本橋水辺再生研究会 代表 工藤哲夫
 - 外濠再生懇談会 共同代表 宇野球(東京理科大学教授)
陣内秀信(法政大学特任教授)

玉川上水・分水網関連遺構 100選の選考委員

- 選考委員長
西村 幸夫: 歴史文化遺産保全(プロジェクト未来遺産委員長・神戸芸術工科大学教授)
- 選考委員
鼎 信次郎: 河川工学・水文学(東京工業大学理工学部教授)
知野 泰明: 土木史(日本大学理工学部准教授・土木学会土木史委員会委員長)
真下 祥幸: 多摩の歴史と文化(東京都江戸東京博物館学芸員)
開発 法子: 自然環境(前日本自然保護協会事務局長・リスの家代表)
小坂 克信: 武蔵野台地の水利用:(産業考古学会理事・水車と臼分会代表、立川市史編さん委員)
山本 泰人: 江戸の水文化・下町(日本橋再生推進協議会・水辺再生研究会代表)

発行: 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会
発行日: 2020年1月
連絡先: 文京区春日1-1-27 中央大学理工学部都市環境学科
都市システム研究室(谷下研究室・担当辻野)
Tel. 03-3817-1810

■玉川上水・分水網関連遺構 100選の選考経過

玉川上水・分水網関連遺構の選考対象区域はまず、羽村から四谷大木戸を3区間に区分しさらに、外濠・日本橋川を経て隅田川までの自然流下する区間を玉川上水系(本線)として一体的にとらえることとした。一方、分水は基本的には系統毎に関連遺構を調査することとした。

調査は、地域で活躍している38の市民団体と連携して実施した。この団体毎に概ね10点の遺構を発掘し、その内重要と思われる遺構を2点を推挙いただいた。

100選遺構の候補は全体で約240点集まり、その内98点が重要とされた。この市民が選んだ遺構について各専門分野の先生方により現時点で不適切と判断される遺構および、追加すべき遺構等を検討整理した。さらに、市民団体が重要とした遺構と委員の提案した遺構を対象として、選考委員の複数の推挙により最終的な100選遺構を選考した。なお、今回の調査では神田上水、田柄用水については市民団体との連携がとれなかったため対象外とした。

100選遺構調査の参加団体

区分	活動区域	名称	
未来遺産登録団体	福生市	玉川上水遊歩道を考える会	
	立川市	玉川上水の自然保護を考える会	
	東大和市	玉川上水野火止水用ネットワーク・東大和	
	東久留米市	NPO中国健康法普及会	
	国分寺市	美しい用水の会	
		ミズモリ団	
	玉川上水ネット	小平市	小平ユネスコ協会 小平市玉川上水を守る会 みどりのつながり市民会議 学び舎江戸東京ユネスコクラブ 小さな虫や草やいきものたちをささえる会 玉川上水再々発見の会 玉川上水ストーリーテラーズ 小平井戸の会
		小金井市	小金井玉川上水の自然を守る会
		武蔵野市	武蔵野ユネスコ協会 玉川上水を守り育てる武蔵野市民の会 武蔵野の森を育てる会
		三鷹市	住みよい環境をつくる三鷹市民の会 井の頭の歴史を知る会 三鷹市環境市民連合 井の頭バードリサーチ
杉並区		玉川上水・すぎなみの会 久我山緑の散歩道	
渋谷区		渋谷川・水と緑の会	
新宿区		NPO 新環境活動ネット	
一般団体		埼玉県	新河岸川水系水環境連絡会 野火止水用を守る会 NPO 国分寺まちづくりセンター
		世田谷区	NPO 世田谷環境学習会
		板橋区	板橋史談会
	北区	北区史を考える会	
	豊島区	渠鴨庚申塚のまちづくりを考える会	
	文京区	文京文化資源リサーチ倶楽部	
	品川区	グリーンインフラ品川 品川用水復活研究会	
	千代田区	外濠再生懇談会	
	中央区	日本橋再生推進協議会・水辺再生研究会	

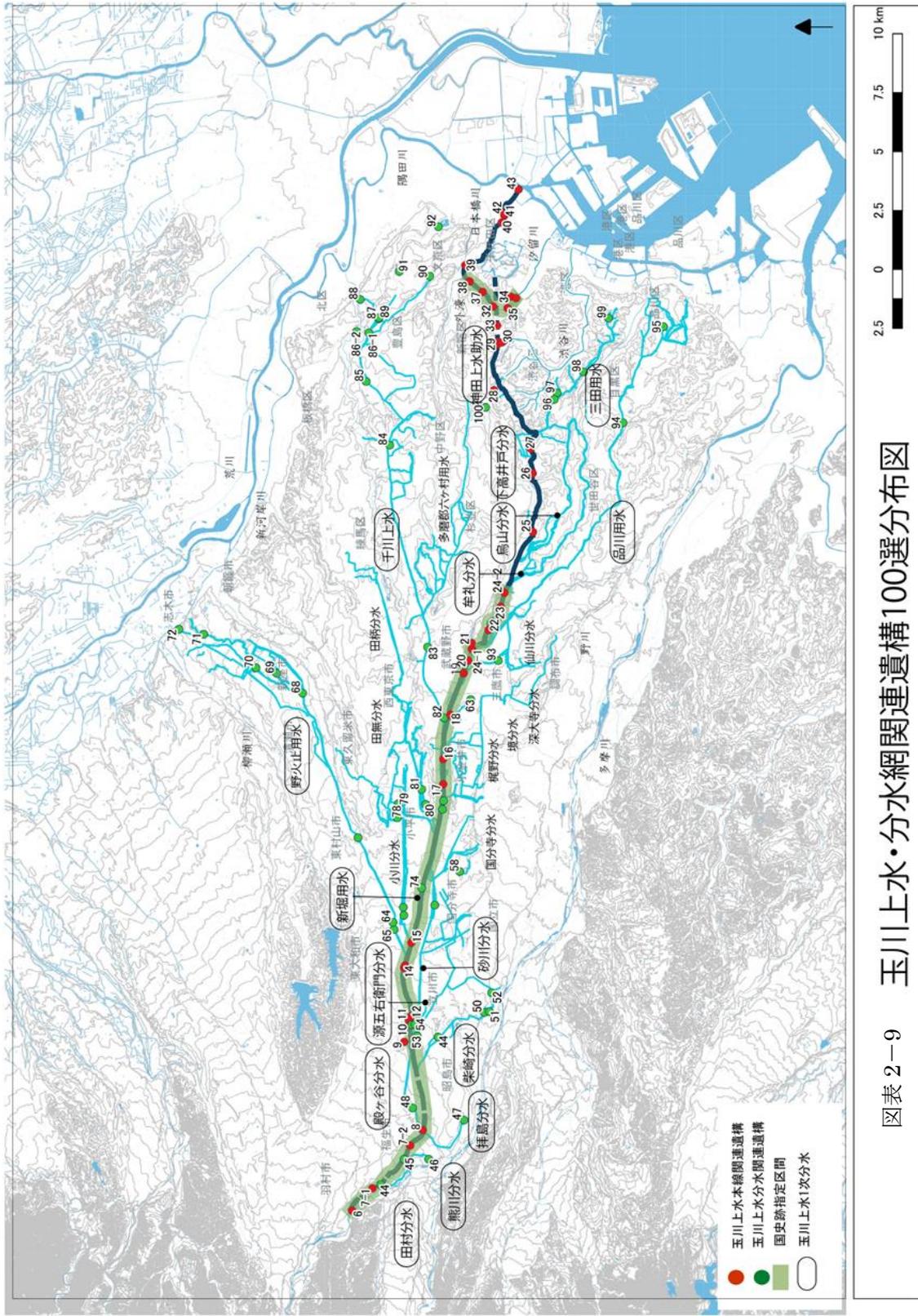
図表 2-6 玉川上水・分水網関連遺構 100選パンフレット(表紙)

区分	区間	行政区	No.	分類	遺構名称	摘要
本線	T.全区間	全区間	1	1. 水路構造	玉川上水素掘り水路	
		全区間	2	9. 自然環境	水路際の自然生態系	
		全区間	3	2. 水利施設	玉川上水分水改正と分水口遺構	
		全区間	4	5. 水路管理	玉川上水水番所・水衛所跡	
		全区間	5	2. 水利施設	玉川上水通船遺構	
	I 玉川上水上流 (羽村堰-小平監視所)	羽村市	6	2. 水利施設	羽村の堰	
		福生市	7	1. 水路構造	開削工事跡(水喰土)	
		福生市	8	7. 街道橋梁	日光橋(レンガアーチ)	
		立川市	9	1. 水路構造	旧残堀川開削	
		立川市	10	9. 自然環境	古残堀川交差付近築堤大曲	
		立川市	11	1. 水路構造	玉川上水通船と巴河岸	
		立川市	12	8. 水辺利用	金比羅山	
	II 玉川上水中流 (小平監視所～浅間橋)	小平市	13	6. 水道施設	小平監視所	
		小平市	14	10. 碑・文献	清流復活碑上水小橋	
		小平市	15	7. 街道橋梁	小川橋と石橋供養塔	
		小平市	16	9. 自然環境	名勝小金井サクラ	
		小平市	17	7. 街道橋梁	小金井橋	
		武蔵野市	18	9. 自然環境	独歩の森	
		武蔵野市三鷹市	19	7. 街道橋梁	JR三鷹駅交差部	
		武蔵野市三鷹市	20	4. 池泉利用	都立井の頭恩賜公園	
		三鷹市	21	8. 水辺利用	風の散歩道等	
		三鷹市杉並区	22	9. 自然環境	玉川上水緑道・渓谷・農業	
		三鷹市杉並区	23	7. 街道橋梁	牟礼橋・人見街道	
		杉並区	24	10. 碑・文献	水難者慰霊碑	
	III. 玉川上水 downstream (浅間橋-四谷大木戸・四谷見附・外濠)	杉並区	25	8. 水辺利用	玉川上水第2公園	
		杉並区	26	6. 水道施設	新水路跡と水道道路	
		渋谷区	27	1. 水路構造	代田橋～笹塚橋開渠区間	
		渋谷区	28	6. 水道施設	淀橋浄水場跡	
		新宿区	29	8. 水辺利用	新宿御苑 内藤新宿分水分散策道	
		新宿区	30	10. 碑・文献	水道碑記	
		新宿区	31	2. 水利施設	余水吐バルブ	
	IV 外濠	新宿区	32	2. 水利施設	四谷市中配管地と御門掛樋	
		新宿区	33	1. 水路構造	玉川上水導水管(濠池管)遺構	
		千代田区	34	2. 水利施設	清水谷公園 石枘	
		新宿・千代田区	35	1. 水路構造	真田壕	
		港・千代田区	36	1. 水路構造	溜池と弁慶濠	
		新宿・千代田区	37	1. 水路構造	市ヶ谷濠・新見附濠・牛込壕	
	新宿・千代田区	38	1. 水路構造	外濠の神田川出口		
	V. 日本橋川	新宿・千代田区	39	1. 水路構造	神田川と日本橋川分派	
		千代田区	40	7. 街道橋梁	常盤橋門跡と常盤橋	
		中央区	41	8. 水辺利用	日本橋川と魚河岸跡	
		中央区	42	7. 街道橋梁	日本橋と日本国道路元標	
		中央区	43	8. 水辺利用	河港 隅田川との合流点	

図表 2-7 玉川上水・分水網関連遺構 100 選 (本線)

分水	1. 上流分水	①福生分水	福生市	44	2. 水利施設	取水口と田村酒造
		②熊川分水	福生市	45	4. 池泉利用	森田家別荘跡の池泉(幸楽園)
			福生市	46	2. 水利施設	熊川分水と小川酒造
		③拝島分水	昭島市	47	7. 街道橋梁	拝島分水と拝島宿
		④殿ヶ谷分水	昭島市	48	10. 碑・文献	殿ヶ谷分水記念碑と開渠
		⑤柴崎分水	立川市	49	2. 水利施設	ハラツクルマ(中島水車跡)
			立川市	50	1. 水路構造	中央線掛樋
			立川市	51	2. 水利施設	普濟寺の洗場
			立川市	52	3. 新田開発	廻り水路と水田
		2. 砂川用水	①砂川分水	立川市	53	3. 新田開発
	立川市			54	1. 水路構造	開渠の砂川用水
	②源五右衛門分水		立川市	55	2. 水利施設	源五右衛門分水遺構群
	③恋ヶ窪分水		国分寺市	58	8. 水辺利用	恋ヶ窪分水復活遺構
	④旧野中新田用水		国分寺市	56	1. 水路構造	国分寺で唯一の流水路
			国分寺市	57	2. 水利施設	榎戸水車遺構
	⑥小金井分水		小金井市	59	1. 水路構造	高杉水車ほっこめぎ(胎内堀)遺構
			小金井市	60	2. 水利施設	小金井分水門
		小金井市	61	1. 水路構造	山王窪の築樋	
	⑦梶野分水	小金井市	62	1. 水路構造	梶野分水築樋	
	⑧境村分水	武蔵野市	63	8. 水辺利用	杵築大社	
	3. 野火止用	①東京都区間	東大和市	64	9. 自然環境	野火止緑地(東大和市)
			東大和市	65	9. 自然環境	東大和・ホテルの里
			東大和市	66	2. 水利施設	恩多野野火止水車苑
		②埼玉区間	新座市	67	8. 水辺利用	史跡公園
			新座市	68	1. 水路構造	たかばしの伏せ越し
			新座市	69	2. 水利利用	平林寺と平林寺堀
			新座市	70	9. 自然環境	西分橋ホテル養殖
			志木市	71	2. 水利施設	慶応志木高校野火止用水跡
	志木市	72	1. 水路構造	新河岸川いろは樋跡		
	4. 小平用水	①新堀用水	小平市	73	1. 水路構造	新堀用水胎内堀
			小平市	74	2. 水利施設	小島水車遺構(新堀用水)
			小平市	75	8. 水辺利用	小平市親水路。緑道のネットワーク
		②小川分水	小平市	76	3. 新田開発	青梅街道沿小川分水・新田開発
			小平市	77	3. 新田開発	水路沿いの農家屋敷林・洗い場
			小平市	78	8. 水辺利用	小川用水築樋とあじさいの小路
			小平市	79	1. 水路構造	筑樋水路
	④鈴木分水	小平市	81	1. 水路構造	鈴木用水掛樋	
	⑤田無用水	小平市	80	3. 新田開発	畑地を通る田無用水	
	5. 千川上水	①上流区間	武蔵野市	82	8. 水辺利用	千川上水遊歩道
			練馬区	83	3. 新田開発	千川上水路復元と農の風景
			練馬区	84	8. 水辺利用	中新井分水跡(濯川)
			板橋区	85	5. 水路管理	水神祠とあくたどめ
			板橋区	86	2. 水利施設	陸軍火薬製造所分水口跡
			北区	87	10. 碑・文献	千川上水分配堰碑
			北区	88	2. 水利施設	旧醸造試験場建物
			豊島区	89	2. 水利施設	千川上水公園(分配堰沈砂池)
		②下流区間	文京区	91	4. 池泉利用	六義園
			文京区	90	4. 池泉利用	小石川植物園
	6. 品川用水	台東区	92	1. 水路構造	上野動物園内水利遺構	
		三鷹市	93	1. 水路構造	開水路遺構	
		世田谷区	94	2. 水利施設	野澤の大水車遺構	
	7. 三田用水	品川区	95	4. 池泉利用	戸越公園の泉水	
		目黒区	96	1. 水路構造	嵩上げされた流路跡	
		港区	97	4. 池泉利用	旧朝倉家住宅の水路跡	
		港区	98	1. 水路構造	三田用水導堤遺構	
		港区	99	4. 池泉利用	鍋島松濤公園の池と水車	
	8. 神田川助水	新宿区	100	1. 水路構造	神田川への助水堀跡	

図表 2-8 玉川上水・分水網関連遺構 100 選 (分水)



図表 2-9 玉川上水・分水網関連遺構100選分布図

3. 関連遺構 100 選の特徴と評価

(1) 水系に共通する遺構の概要

個別の遺構については、既に「2018 年度玉川上水・分水網の保全再生フィールドミュージアムの展開に関する調査（玉川上水域研究会）」の資料編で解説を掲載しておりここでは、水系に共通する遺構の解説と付図のみを追加した。

①玉川上水素堀水路(開渠区間)

玉川上水系には、次の遺構が国の史跡として指定されている。

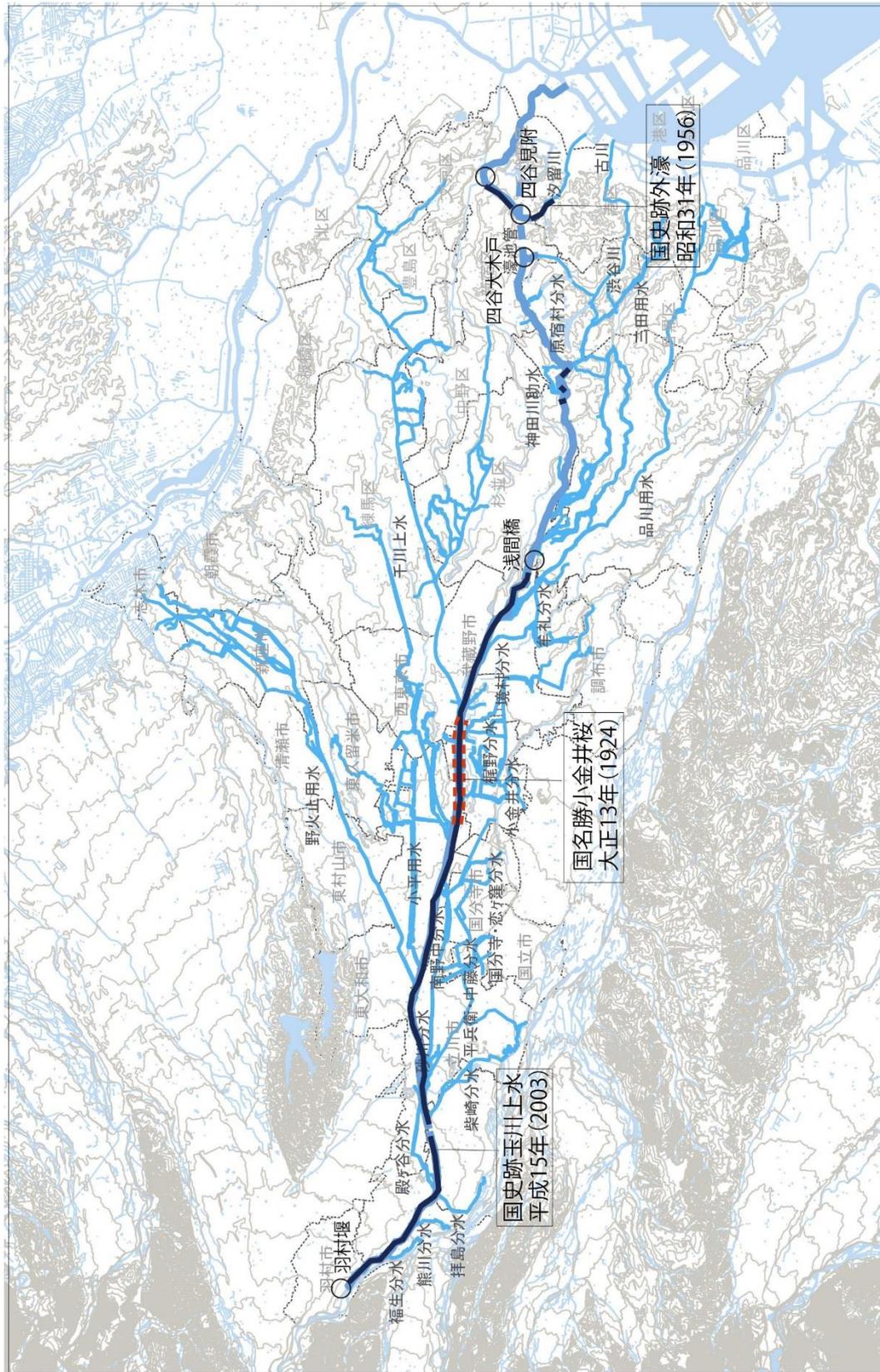
- 1923（大正 13）年指定 小金井桜（サクラ）
小金井橋を中心に約 6 kmの桜並木
- 1928（昭和 3）年指定 常盤橋門跡
- 1955（昭和 30 年代）指定江戸城外堀跡 延長約 4 km
江戸城惣構の石垣の原形をとどめている約 3 割
- 2003（平成 15）年指定 玉川上水の開渠区間 約 30 km※1

※1 玉川上水は、優れた測量技術に基づく長大な土木構造物であり、近世初期における水利技術を理解する上で重要です。また近世都市江戸の用水供給施設として、また武蔵野台地の近世灌漑用水として貴重な土木遺産です。しかも、改修が繰り返し行われているものの、かつての路線のまま連続して残されています。とくに小平監視所までの上流部は、今なお水道導水路として使用されているため、近代の土木施設として高い歴史的価値を有しています。（東京都水道局ホームページから引用）

これらの史跡は、玉川上水の水の流れによってつながり、沿川の地域と一体的となった景観が形成されている（写真 3-1 参照）。従って、玉川上水系の水流の復活、水辺環境の再整備が進めば改めて史跡玉川上水と江戸城外堀跡が連続した「重要景観区域」などとして一体的な文化財として再評価することも可能ではないかと考えられる。



写真 3-1 玉川上水 立川市砂川
3 丁目付近



②水路沿いの自然生態系

玉川上水は、その名称からも水辺の環境としての価値が市民に高く評価されるのではと思われがちである。また太宰治の一件を持ち出すまでもなく、人が流されるほどの急流―人喰い川―というイメージが持たれている。

しかしながら、市民の遺構としての評価の中には水流と水辺環境が抜け落ちていることがきわめて印象的である（図表 3-2 参照）。

自然生態系の評価項目として挙げられているのは、武蔵野の象徴されるような雑木林等の「緑地的」評価のみである。ここら辺が玉川上水の置かれている難しい局面が端的に表れているともいえる。

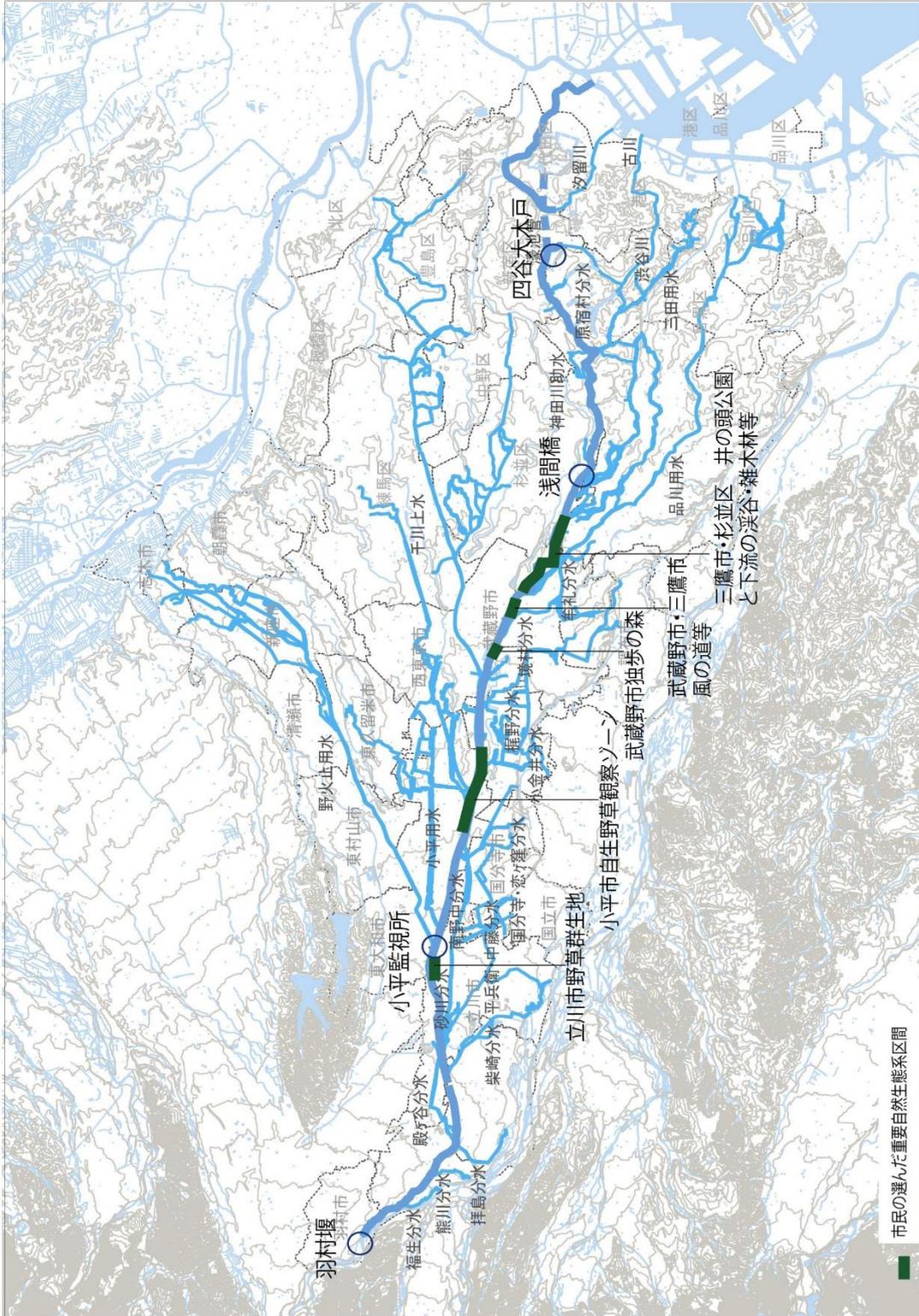
また、その緑地的評価も、水路が都心から山地まで連なる延長約 43 km にもおよび周辺の土地利用・環境は大きく異なる。このため緑地としての評価も地域ごとに変わる。

例えば、山地に近い福生・立川では畑地・雑木林も周辺残るために、玉川上水沿いの自然の評価は広い水路空間に沿って自生するキンラン・ギンラン・カタクリなどの自生の貴重種へと眼差しが向かう。また中流部では住宅街が広がり相対的に武蔵野の緑地が減少したために、玉川上水沿いの雑木林や周辺のススキなど（水辺のヨシやオギではない！）、自生の野草の保全が取り上げられる。さらに下流の都心部に近かざくと、常緑樹を含めた緑地まで保全の対象となりその眼差しは畑地雑草群落にまでおよぶ。

これらは、全体的な地域構成と緑地への意識の違いとして語られるべきだが、その中心にあるべき玉川上水と水辺の生態系がすっぽりと抜け落ちていることが、現在の玉川上水の置かれている姿を象徴している。



写真 3-2 小平市自生野草観察ゾーン



市民の選んだ重要自然生態系区間

図表 3-2 水路沿いの自然生態系

③ 玉川上水分水改正と分水口遺構

玉川上水・分水網の維持管理は、明治維新にともない幾度かの組織替えがあったのち 1871（明治 4）年に東京府へと移管される。また、幕末に分水路は 34 となっていたが、1870（明治 3）年に水路構成は大きく改正された。この改正の内容は次の 2 点であるとされる（伊藤好一監修・比留間博著「玉川上水」1991 たましん地域文化財団）。

ア．分水口を、人口・他の面積に合わせた構造とし分水量を制御する。併せて、各分水から使用料を徴収する。

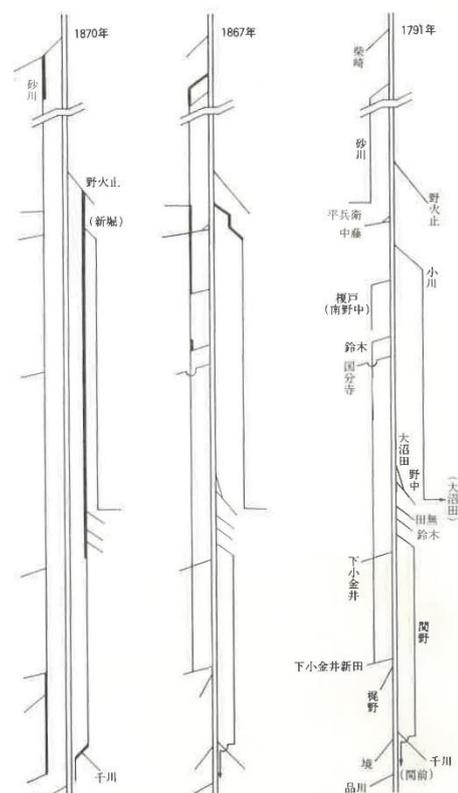
イ．分水の管理が容易なように合口行う。

一方、分水改正に合わせて、水路拡幅、河岸場整備、橋梁嵩上げ等の通船事業がすすめられた。

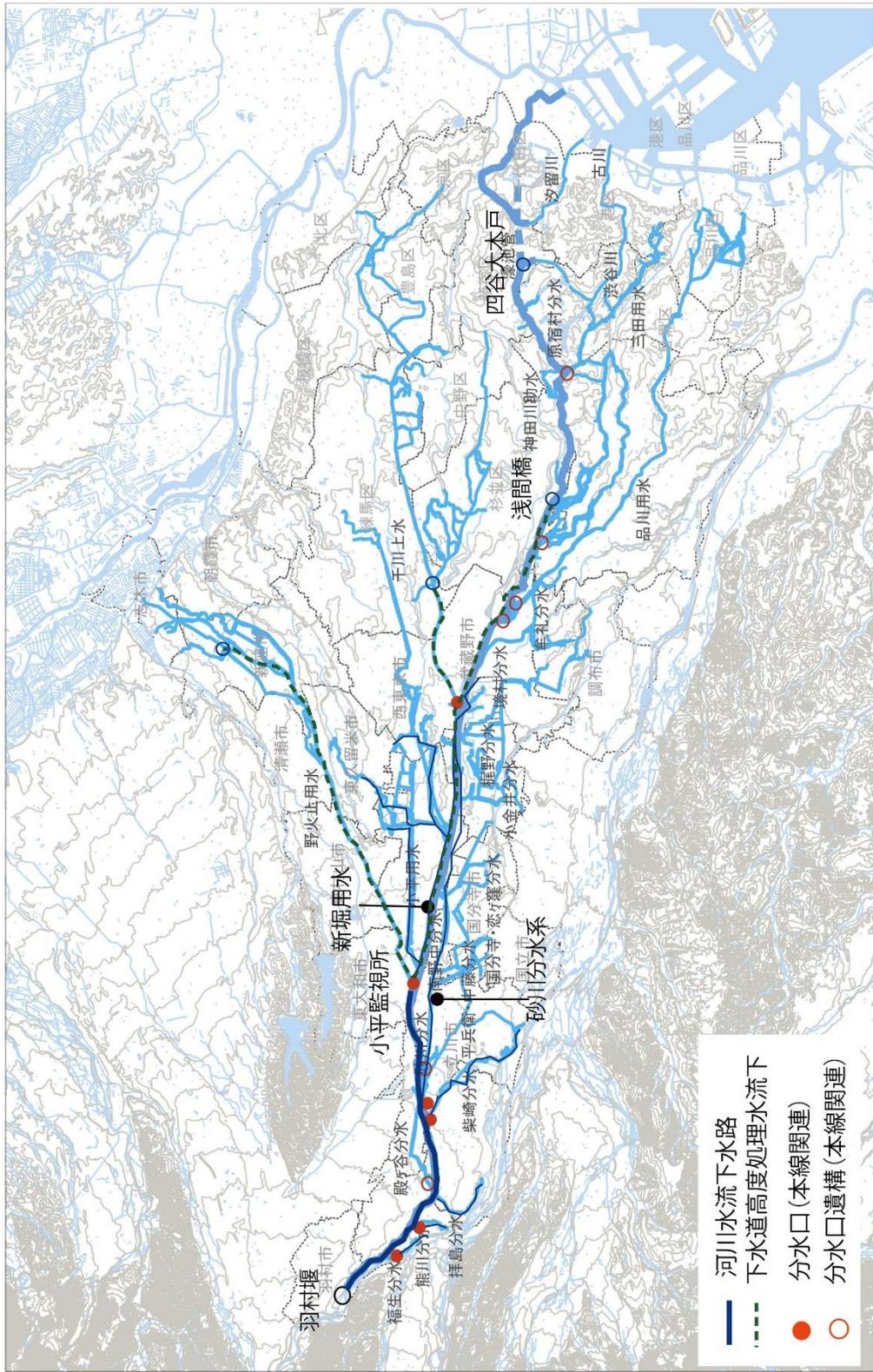
分水は玉川上水の北側では野火止用水から千川上水までの 8 分水が新堀用水によって合口された。また、南側は砂川分水により柴崎村の下流から境村までの 11 分水が合口された（図表 3-3 参照）。これらの分水口のうち南側では、その後新設された 2 分水を加え 10 分水口、北側には野火止用水を含め 4 分水口の遺構が残されている。



写真 3-3 合口された砂川用水取水口と（左側）柴崎用水取水口（右側）



図表 3-3 分水路の合口過程（出典：伊藤好一監修・比留間博著「玉川上」1991 たましん地域文化財団）



図表 3-4 玉川上水分水改正と分水口遺構

④玉川上水水番所（屋）・水衛所跡

玉川上水は羽村堰から四谷大木戸までは開渠で流れていた。この間、大きく4つの区間の持ち場を設定し、沿川の村々に維持管理を分担させていた。また、この担当区間を見廻るために羽村・代田村・四谷大木戸に水番屋が設けられていた（図表3-5参照）。四谷大木戸から下流は埋設された石樋・木樋で江戸市中の各所に配水されていた。

明治時代に入り玉川上水と市街地の水道は東京市へ受け継がれ諸規則を定めるなど水質管理に務めるが、明治19年（1886）のコレラ騒動を契機として淀橋浄水場整備、鉄の水道管敷設等の近代水道への移行がはじまる。同時に多摩地域の東京府への編入も進んだ。こうした中で玉川上水の水路管理は、各所に水衛所を配置した体系的な管理体制が構築された。

この管理体制は昭和40年の淀橋浄水場の廃止以降徐々に廃止され、今は水路の塵除けスクリーンなどによってその面影を留めている。

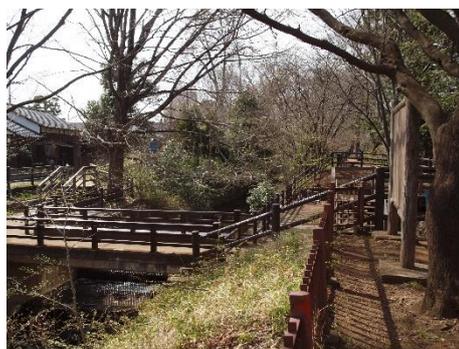
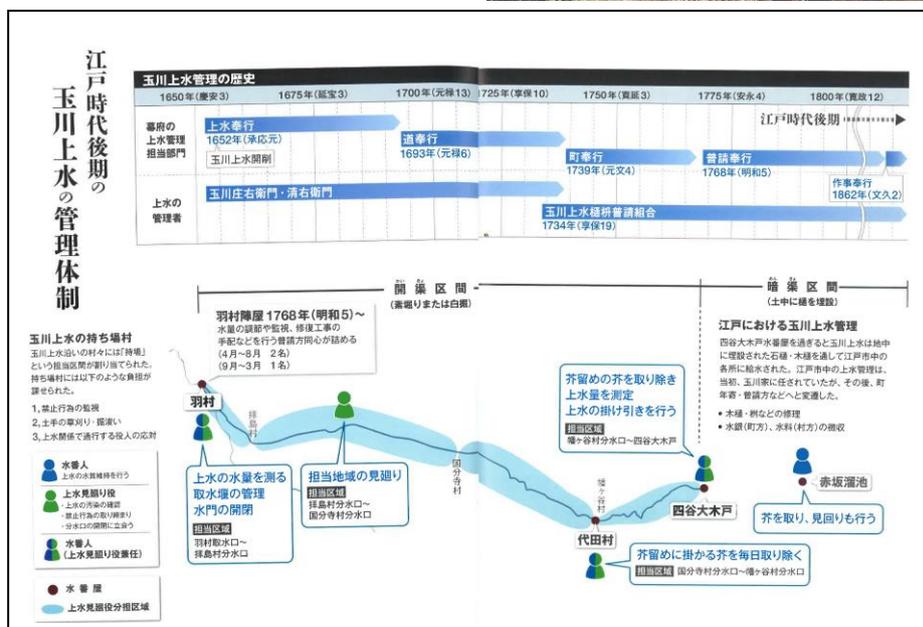


写真3-5 小川水衛所跡



図表3-5 江戸時代後期の玉川上水の管理体制 (出典 図表で見る江戸東京 江戸東京博物館)

④ 玉川上水の通船遺構

玉川上水通船事業については「玉川通船研究会編著 玉川通船事業資料集 1998 たましん文化財団」に詳しい。同資料集を参考に概略を整理すると次のようになる。

玉川上水の通船計画は幕末の 1770（明和 7）年に小川村名主弥次郎、1867（慶応 3）年に砂川村名主源五右衛門等から出願されていたが水質悪化の恐れ等から許可にならなかった。

しかし、1869（明治 2）年に羽村、福生、砂川の名主 3 名が連名で出願したところ許可が下り、通船のための整備が行われた。

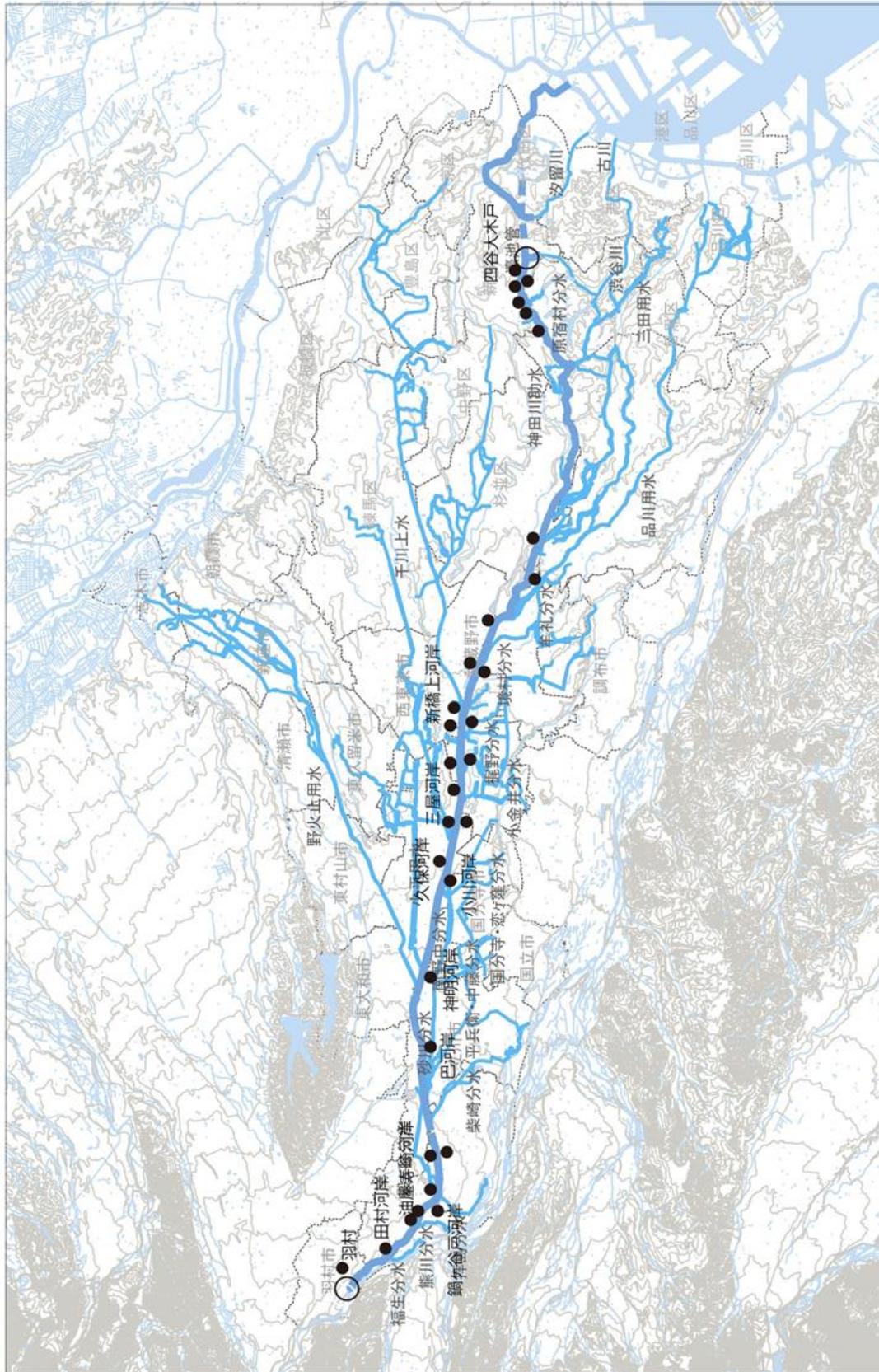
整備は、船溜りに併せ、物置場・納屋等が設置されるとともに狭窄部にの拡幅、橋の嵩上等が行われた。

同時に通船による分水への影響を緩和するため、上水の南側（右支川）は砂川分水口を残し、五日市街道沿の砂川分水を延伸し、境分水までの合口が行われた。さらに、北側（左支川）は野火止用水との分水口付近からあらたに新堀を設け、小川分水から田無分水までの分水口を統合した。また、四谷大木戸から羽村まで 32 ヶ所の船溜・物揚場および河岸問屋が整備された。

通船事業は明治 4 年 4 月～5 年 5 月までの 2 年 1 月実施されたが、水質汚濁等の理由で中止され、船溜・物揚場はすべて撤去された（写真 3-6 参照）。ただし、小川河岸跡だけは水衛所に併せ復元整備され往時の面影をしのばせている（写真 3-5）参照。



図表 3-6 田村河岸跡



図表 3-7 玉川上水の河岸・船着場跡 出典：玉川上水通船資料集 玉川上水通線研究会 1998

(2) 本線・分水に関連する個別的遺構の分布

玉川上水系の系統的に整理された遺構以外の 95 の遺構については改めて展示・現地ガイド用として現在の地図上にプロットした。

当初は、各地域での展示・案内に即した図画を設定して作成する予定としていたが諸般の事情から今回は延期とされたため、5 万分の 1 の切り図作成にとどめた。図面は図表 3-8 に示すように 9 分割、各図が A3 版 5 万分 1 の切図となるように設定した。

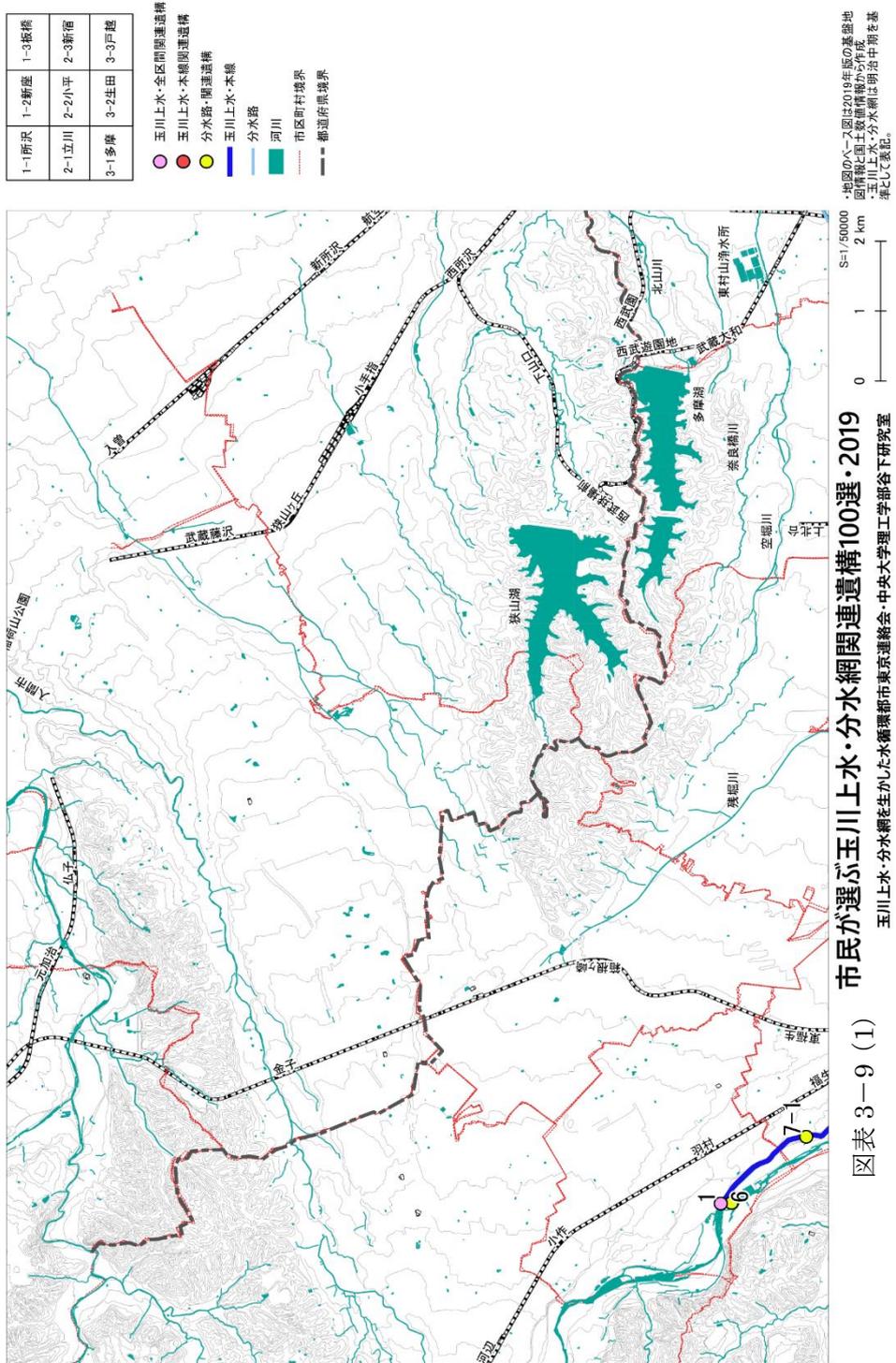
ベースとなる図面は 2019 年版の基盤地図情報と国土数値情報 (QGIS) から作成した。さらに東京都河川図から河川分布を取り出し基礎図とした。

一方、玉川上水・分水網については、「2015 年度 玉川上水・分水網の構成と関連遺構に関する調査」の資料および、市民が 100 選遺構応募時に添付された図面から明治時代中期を基準年とした水路網を抽出して基礎図を作成。最終的に、関連の遺構をプロットした関連遺構分布図を作成した。

1-1 所沢	1-2 新座	1-3 板橋
2-1 立川	2-2 小平	2-3 新宿
	3-2 生田	3-3 戸越

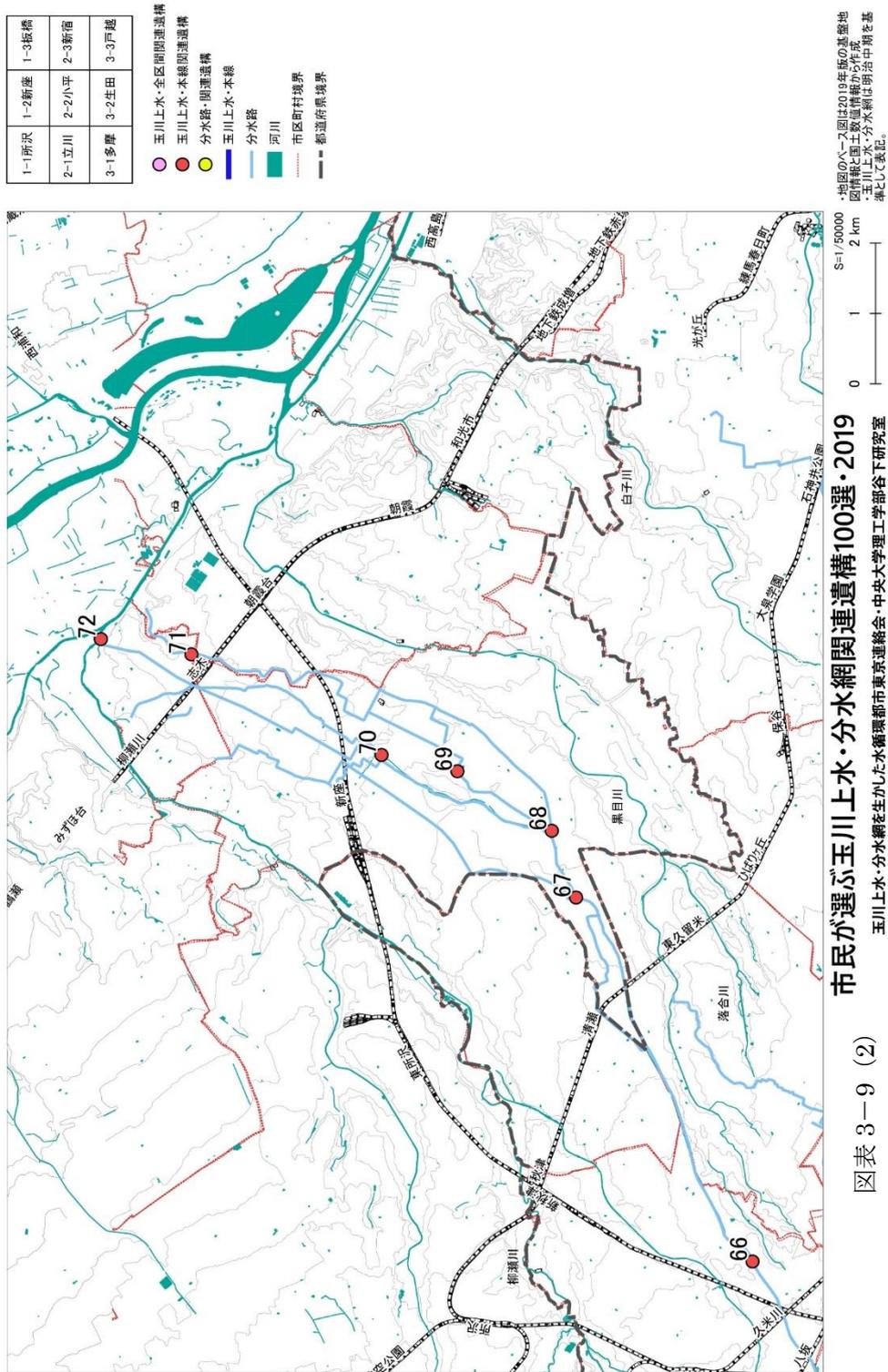
図表 3-8 玉川上水・分水網関連遺構分布図 (S=1/50000)
割付図

1-1

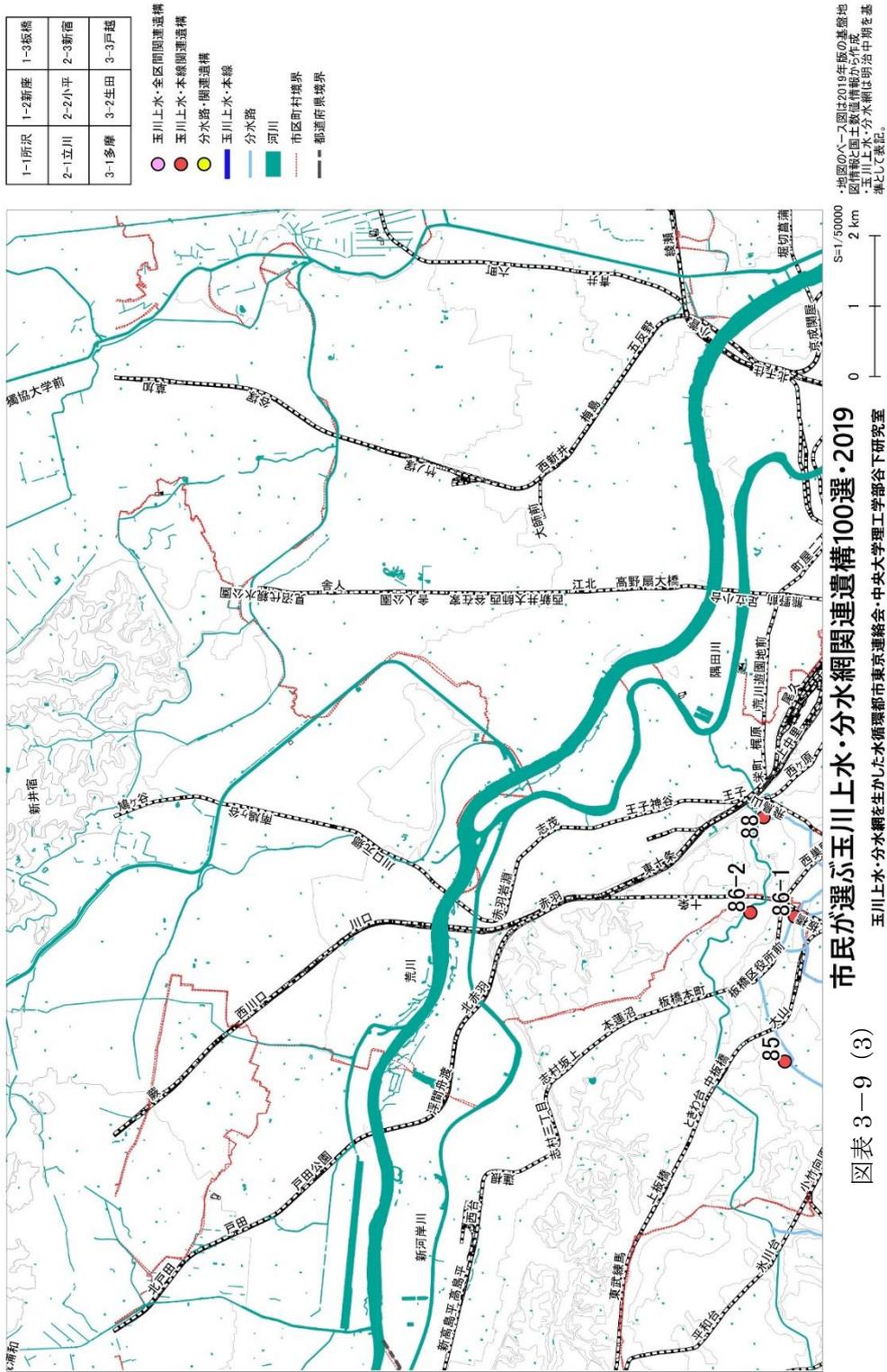


図表 3-9 (1) 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選・2019
 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会・中央大学理工学部谷下研究室

1-2



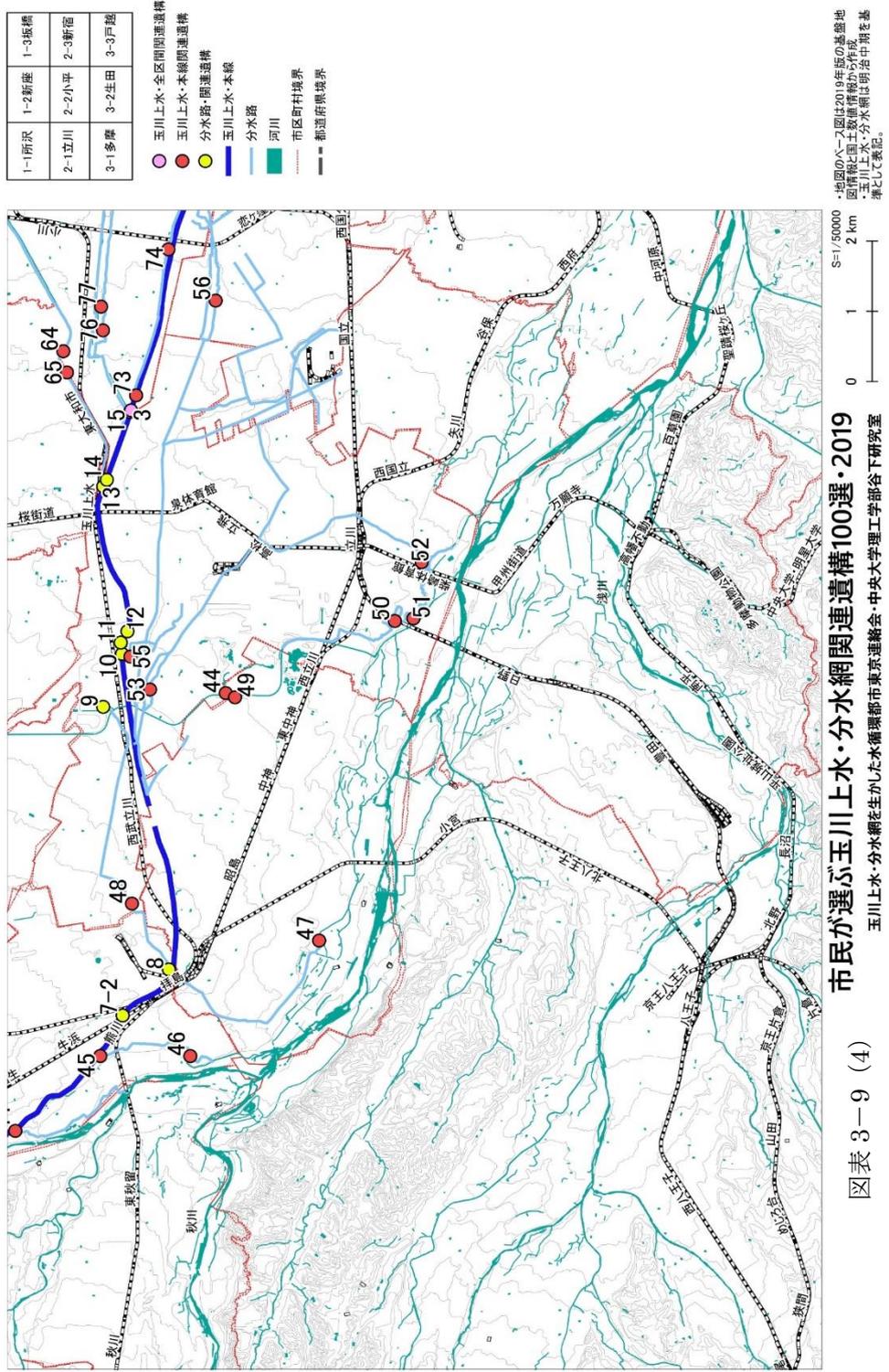
図表 3-1-9 (2)



市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選・2019
 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京研究会・中央大学理工学部谷下研究室

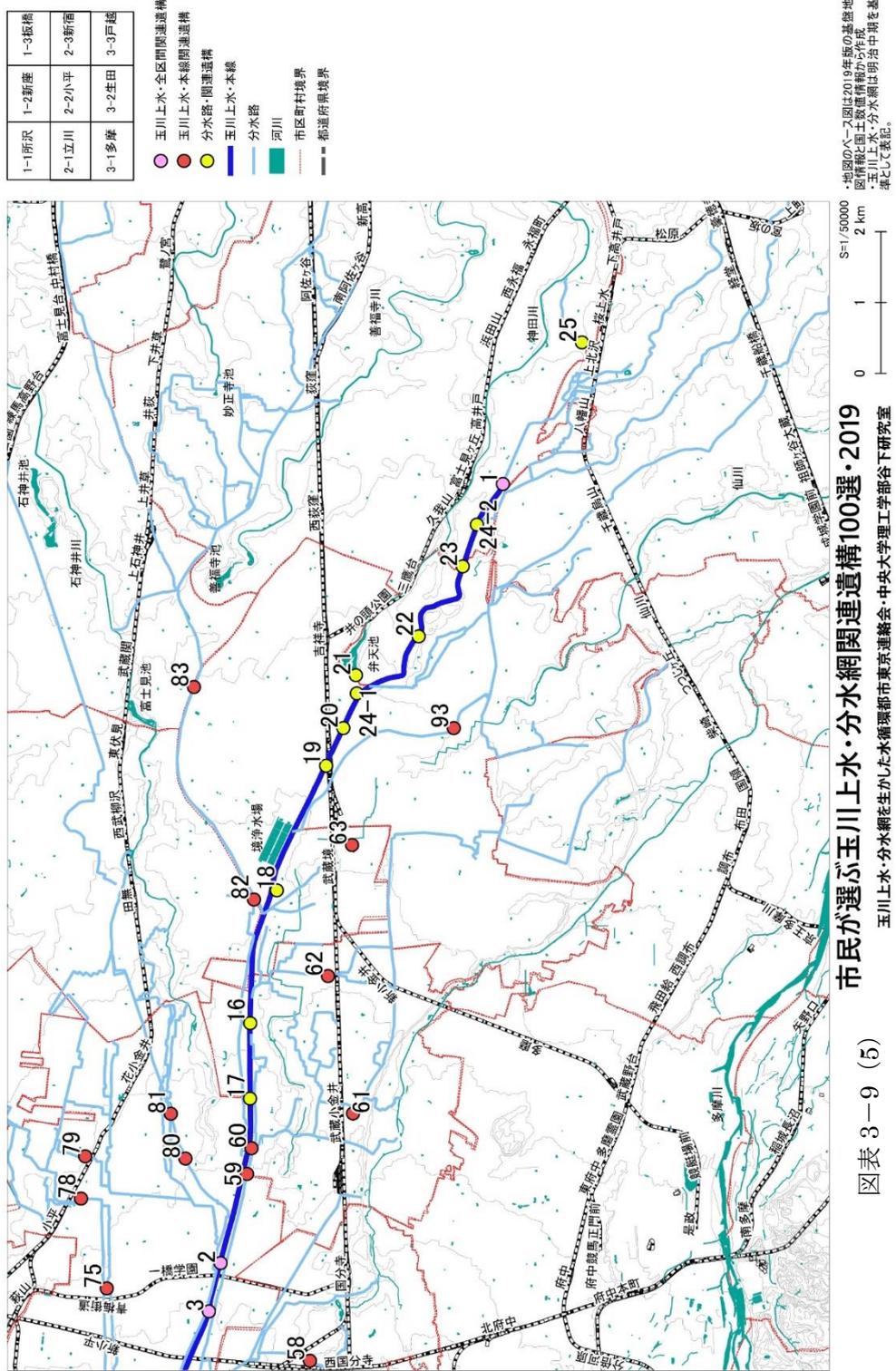
図表 3-9 (3)

2-1



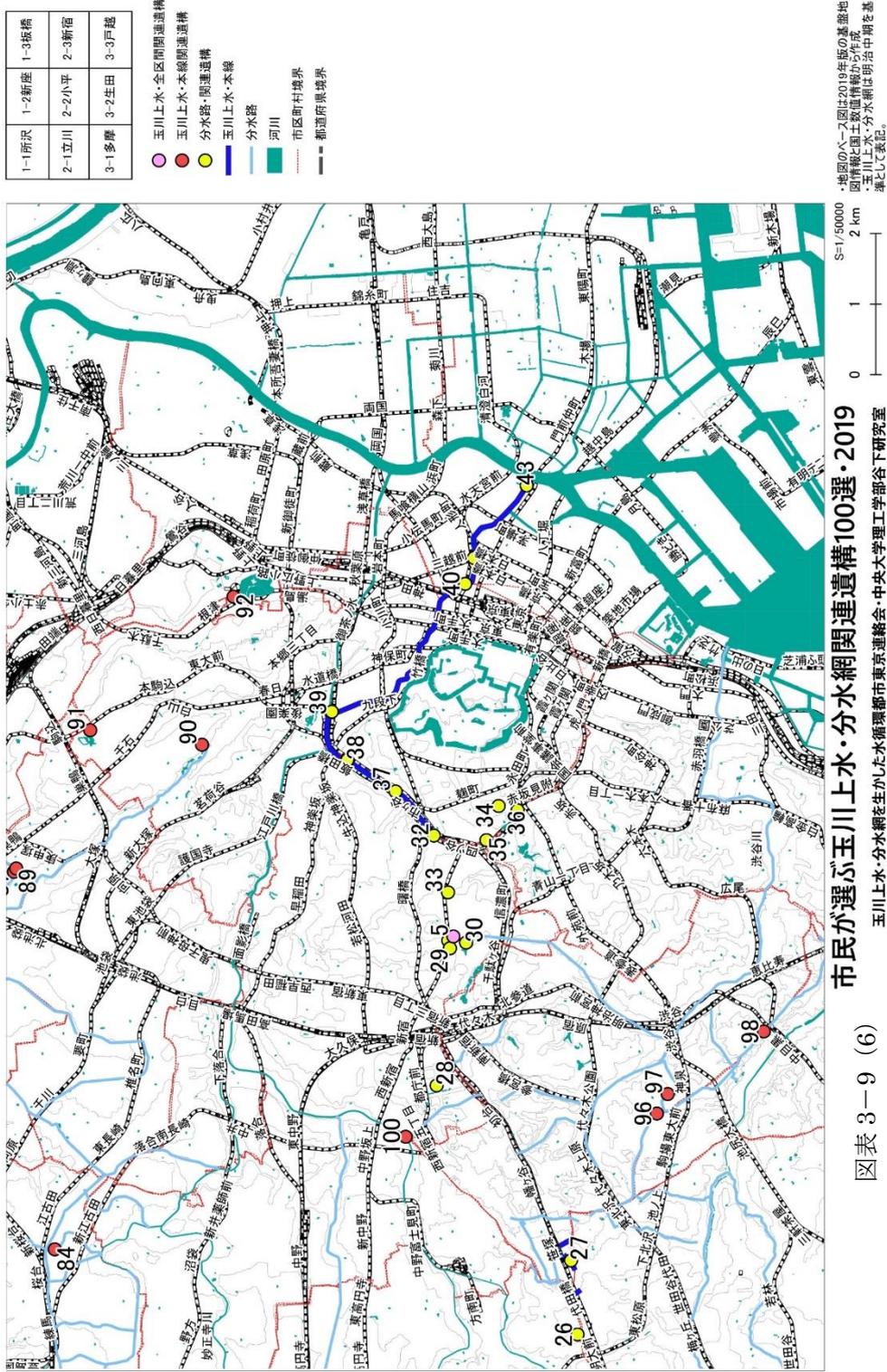
市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選・2019
 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会・中央大学理工学部谷下研究室

S=1/50000
 2 km
 0 1
 地図のペーパークラフト図は2019年迄の基盤地
 図情報(国土数値情報)が作成
 ・玉川上水・分水網は明治中期を基
 準として表記。

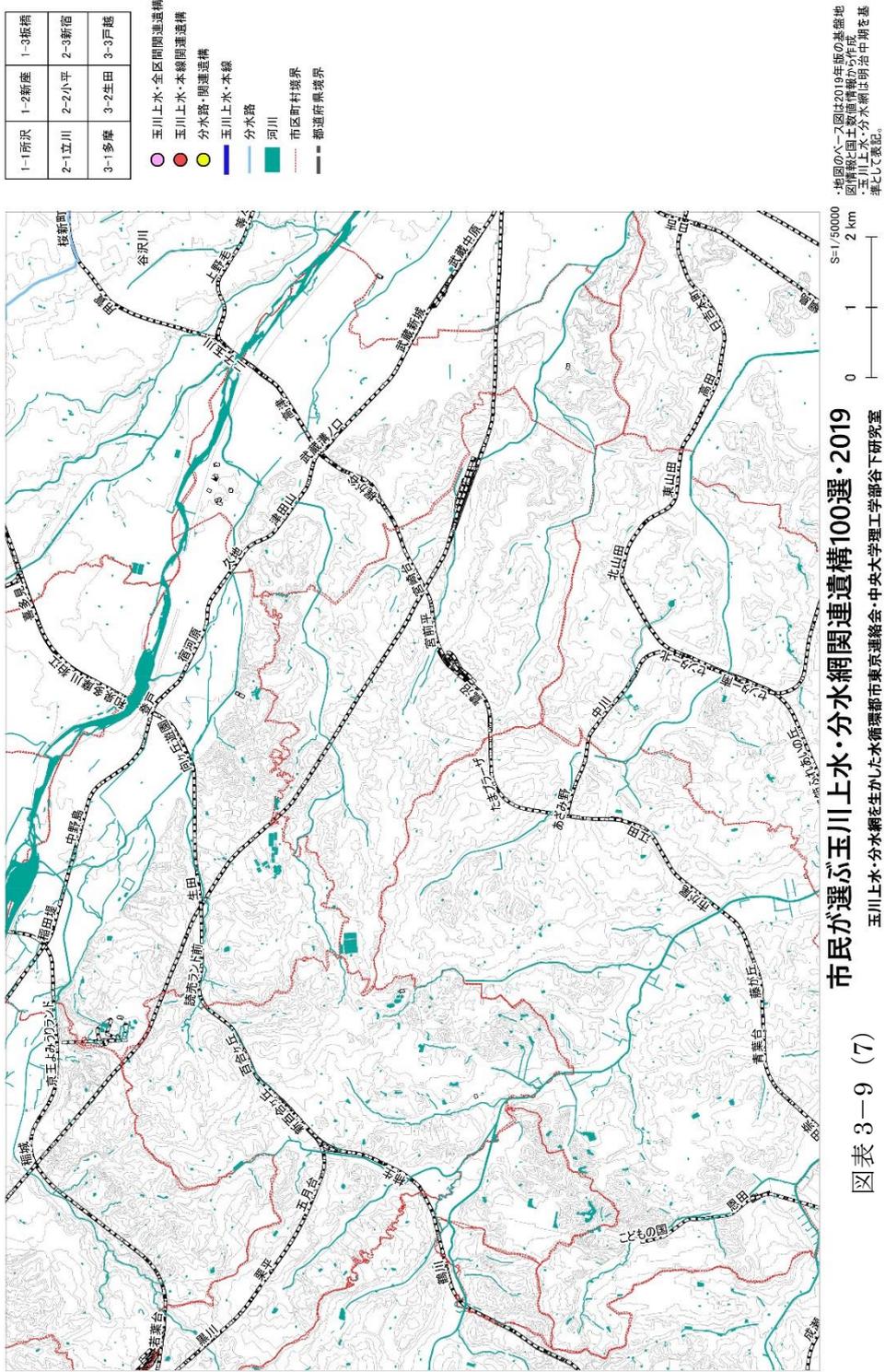


市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選・2019
 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会 中央大学理工学部谷下研究室

図表 3-9 (5)



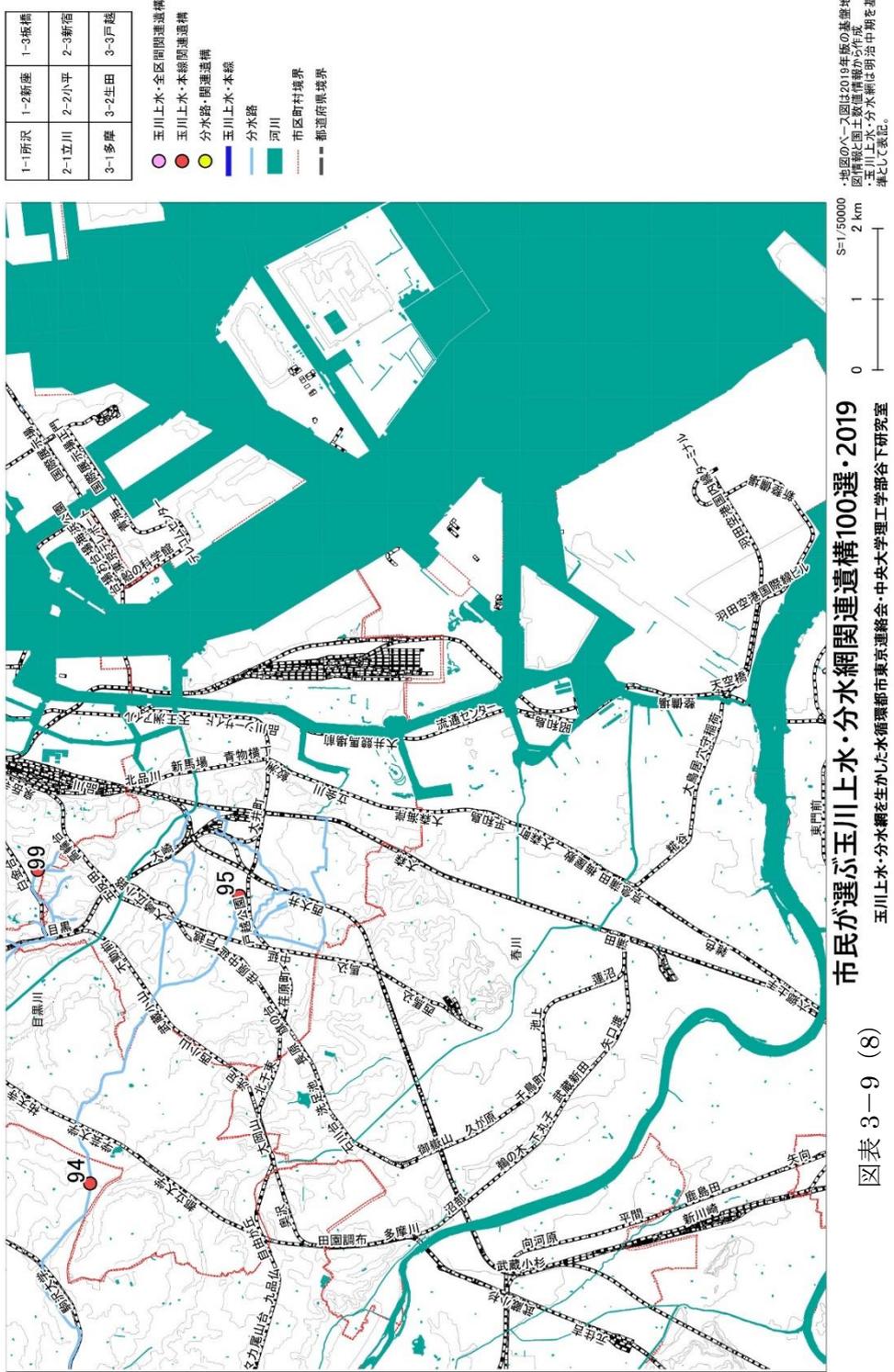
3-2



市民が選ぶ玉川上水・分水網関連選構100選・2019

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京環都市東京連綿会・中央大学理工学部谷下研究室

図表 3-9 (7)



市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構100選・2019

図表 3-9 (8)

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会・中央大学理工学部会下研究室

4. 今後の展開方向

(1) 玉川上水系（玉川上水・外濠・日本橋川）の保全再生

① 「未来の東京」戦略ビジョンと玉川上水系

東京都は2019（令和元）年12月に、2040年代の東京のあり方を示す「未来の東京」戦略ビジョンを公表した。この中で、玉川上水は、“江戸の昔ながらに再生された美しい水と緑が東京を代表するシーンとなっている”と位置づけられた。

さらに、“長期的には、玉川上水を元の多摩川から引き、本来の玉川上水の姿に蘇らせる可能性を展望しながら、当面は外濠に導水するための水源・水量の確保および暗渠区間の改良や導水路新設に係る整備方法等について検討する”とされている（図表4-1参照）。

このように、玉川上水系の水の流れは東京都の戦略ビジョンとして掲げられることとなった。

「未来の東京」戦略ビジョン（2019 東京都）と玉川上水・分水網の保全再生

項目	内容	摘要
ビジョン16 水と緑 2040年代の東京の姿	水と緑を一層豊かにし、ゆとりと潤いのある東京 玉川上水や、河川等の清流が復活し、浄化や自然環境の改善が進んだ外濠ではホタルが舞い、江戸の昔ながらに再生された美しい水と緑が東京を代表するシーンとなっている 日本橋付近では、首都高速道路の地下化により水辺に顔を向けた街並みとなり、豊かな水と緑を楽しむ人々が集い、活発な舟運と相まって、賑わいと憩いの場となっている	「水の都」として栄え、玉川上水の清流や豊富な緑が保全された江戸時代の東京
戦略13 水と緑溢れる東京戦略	<ul style="list-style-type: none"> ●都心も多摩も、あらゆる方策で緑を生み出す ●水辺を核に、ゆとりと潤い溢れたまちをつくる 開発と併せた水辺の賑わいや、魅力溢れる河川空間など、水辺に顔を向けたまちづくりを進めるとともに、江戸の水循環の外濠の水質改善等に取り組むことで、都民に癒しの場を提供し、まさに潤いを与える東京を実現する ●良好な水循環をさらに高め、次世代に受け継ぐ 先人たちが築き上げてきた安全とおいしい水の供給と良好な水循環を更に高たため、自然災害の猛威等に直面しても、適切に対応することができるよう、AI等の最先端技術の活用を含め、水道水源林の管理から下水道の処理に至るまでハード・ソフト両面からの対策を進める 推進プロジェクト ■緑溢れる東京プロジェクト ・新たな緑が次々と創出されている ■まちづくりの機会を捉えた水辺再生プロジェクト ・日本橋周辺が水辺を楽しめる空間に生まれ変わる ■外濠浄化プロジェクト ・人々が憩う水辺に外濠が生まれ変わる ※長期的には、玉川上水の水を元の多摩川から引き、本来の玉川上水の姿によみがえらせる可能性を展望しながら、当面は、外濠に導水するための水源水量の確保および暗渠区間の改良や導水路の新設に係る整備方法等について検討するなど、地元自治体や関係機関と連携し外濠に導水する事業を推進 ■安全でおいしい水の安定供給と良好な水循環プロジェクト ・豊かな水循環を次世代に引き継ぐ ・水の安定供給の源となる水源対策を推進する ・老朽化や更新時期を迎える基幹施設を再構築する ・高品質な水の供給と公共用水の水質保全対策を更に推進していく ・震災や浸水など様々な脅威へ備える	

図表4-1 「未来の東京」戦略ビジョンと玉川上水

② 玉川上水系玉川上水・外濠・日本橋川) 保全再生への道筋

「未来の東京」戦略ビジョンの公表を受けて、学識経験者と市民団体が連携して玉川上水・分水網の保全再生を目指している「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会(代表山田正中央大学教授)」では、2020年1月18日に第4回シンポジウムを開催した。このシンポジウムでは、玉川上水と外濠・日本橋川を連携した江戸時代からの水の大動脈を保全再生するための具体的な道筋について次の内容を骨子とする提言をまとめた(図表4-2、3参照)。

ア. 玉川上水の中流の開渠区間は、素掘りの水路で周辺には樹木が繁茂し、清流を復活させるために、流量や構造などについて多くの調整が不可欠であるため、できるだけ早い段階で徐々に通水しながら整備のあり方を決める“見試し”による検討方法を採用すべきこと。

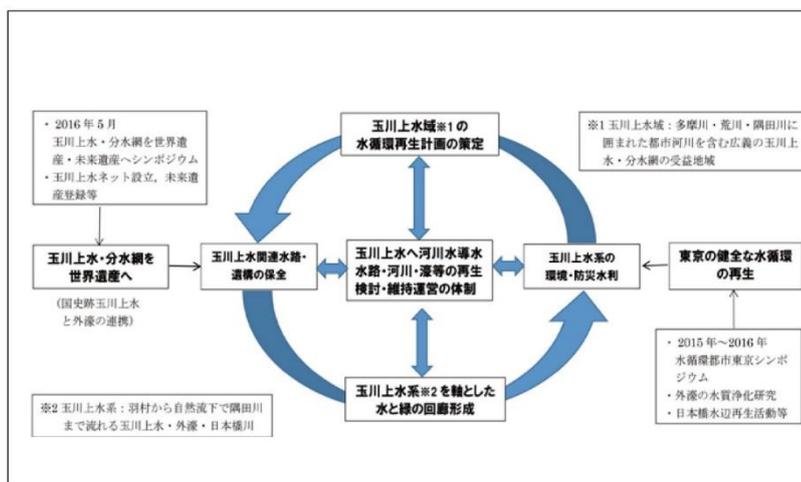
イ. “本来の玉川上水の姿に蘇らせる可能性を展望”とは、単に玉川上水を水辺再生等の環境的な側面だけでなく、震災などの緊急時に東京の東西を貫く自然流下で流れる河川水を緊急時の消防水利や復興自の生活用水としても考慮すること。

ウ. さらに、尾根を流れる玉川上水が武蔵野台地全体に及ぼす地下水や湧水などに与える影響等の水循環について考慮すること。

エ. 玉川上水の安定した水量の確保、水路の環境整備を進めるとともに、周辺環境や関連遺構等の保全再生に留意した東京の東西を結ぶ広大な水緑の回廊の形成を図ること。

オ. これらの整備にあたっては玉川上水・分水網の総合的な保全再生計画として取り組むこと。さらに整備、維持管理を含めた、国・自治体・学識経験者・市民と連携する運動体を構築すること。

これらのビジョンや提言によって玉川上水系の保全再生の大きな道筋が開けつつある。



図表 4-2 第4回シンポジウムの枠組

第4回シンポジウムの提言

私達は、これまで身近な河川・濠・水路等の環境悪化を憂慮し、東京の各地域で保全再生活動に取り組んでまいりました。しかし近年、水辺環境の再生には江戸から東京へと受け継いできた水の大動脈である玉川上水・分水網等の流れを復活することが不可欠であるとの思いを強く抱くようになりました。このため、2016年に多くの大学研究者、関連市民団体と連携し「玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会」を設立し、シンポジウムの開催や関係機関への提言をおこなってまいりました。

幸いにも2019年12月に発表された東京都「未来の東京」戦略ビジョンでは『「水の都」として栄え、玉川上水の清流や豊富な緑が保全された江戸時代の東京』として再評価されるに至りました。

この方針をより確かなものとし、玉川上水を軸とした多摩川からの水の流れを復活させるため、次の事項を提言いたします。

1. 玉川上水の試験的通水による外濠・日本橋川等の水質浄化の促進

東京オリンピック・パラリンピックのレガシーとして、多摩川から玉川上水へ導水し、再開発が進む外濠・日本橋川、渋谷川等の水質浄化と水辺環境整備を促進すべきと考えます。玉川上水からの導水には、水路の環境に与える影響、維持管理の方策等多くの課題が予見されます。このため、徐々に水を流しながらその影響を研究者、市民との協働のもとに計測、評価する「見直し」による導水が適切であることを提言します。

2. 玉川上水域の水循環再生計画の策定と緊急時防災水利等の確保

羽村から隅田川に至る玉川上水系（玉川上水・外濠・日本橋川等）は東京の水循環の基軸の一つです。この流れを基本に、分水網・中小河川を含む区域を玉川上水域として一体的にとらえた「（仮称）玉川上水域水循環再生計画」の策定を提言します。

さらに、この水循環再生計画にもとづき、自然に流下する玉川上水の水を緊急時の水利としても活用し、災害に対するレジリエンス（回復力）の強化を促したいと考えます。

3. 玉川上水域の水循環再生から世界に誇れる水と緑の回廊づくりへ

緊急時の防災水利等の確保に加え、玉川上水域の水利条件に応じた水路環境整備や分水と連携した池泉、湧水、中小河川的环境改善を促すべきと考えます。この

1

4. 玉川上水域全体の保全再生を促進するための協議会等の体制づくり

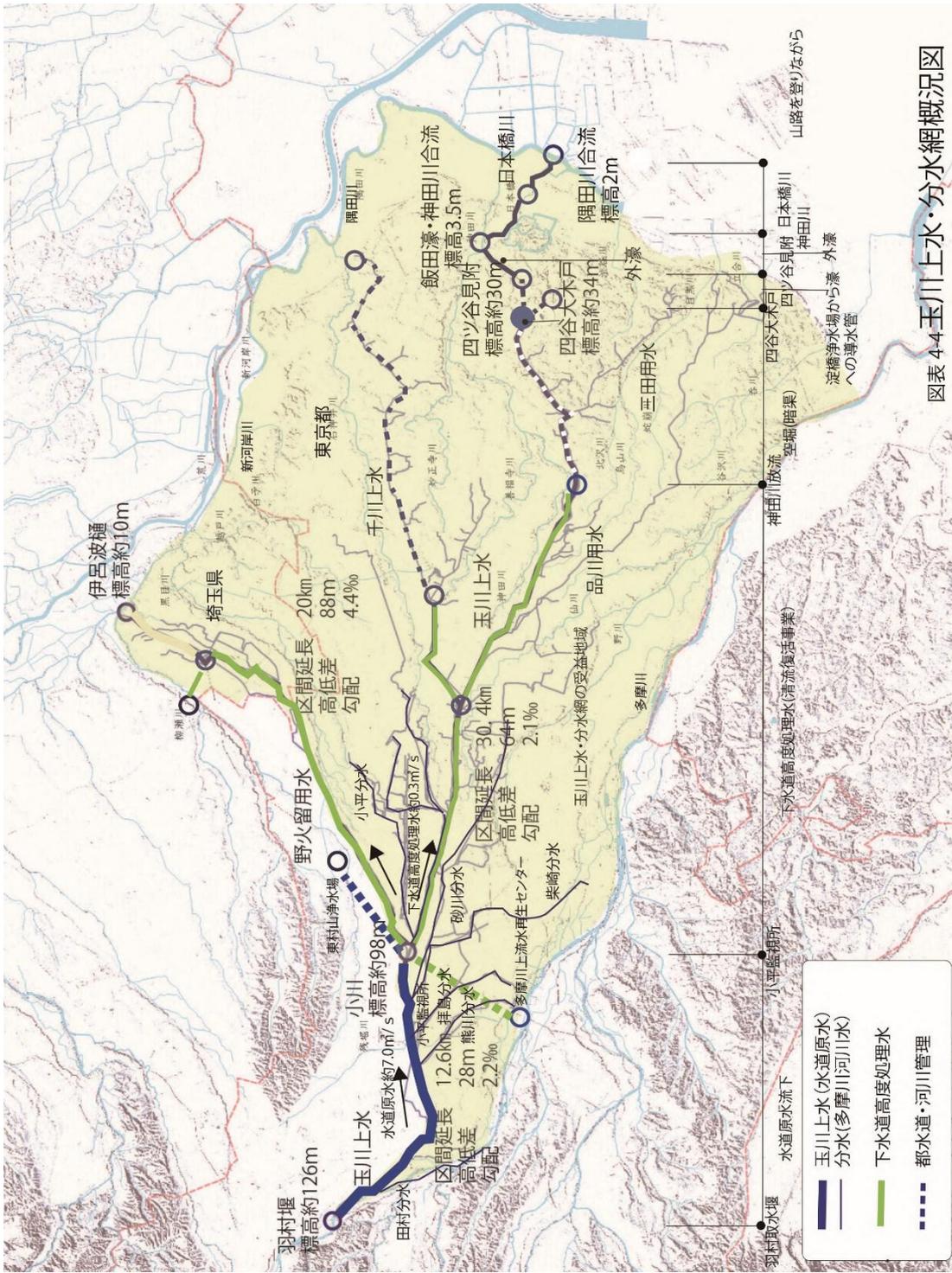
「（仮称）玉川上水域水循環再生計画」策定のための関連自治体、研究者等による協議会や市民との協働による玉川上水域の水流・水辺環境の維持管理や利活用の体制づくりを提言します。

以上

令和2年1月18日

玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会
第4回シンポジウム 参加者一同

図表 4-3 玉川上水・分水網を生かした水循環都市東京連絡会第4回シンポジウムの提言



図表 4-4 玉川上水・分水網概況図

(2)玉川上水域の玉川上水・分水網関連遺構の保全再生

① 玉川上水・分水網関連遺構 100 選の構成

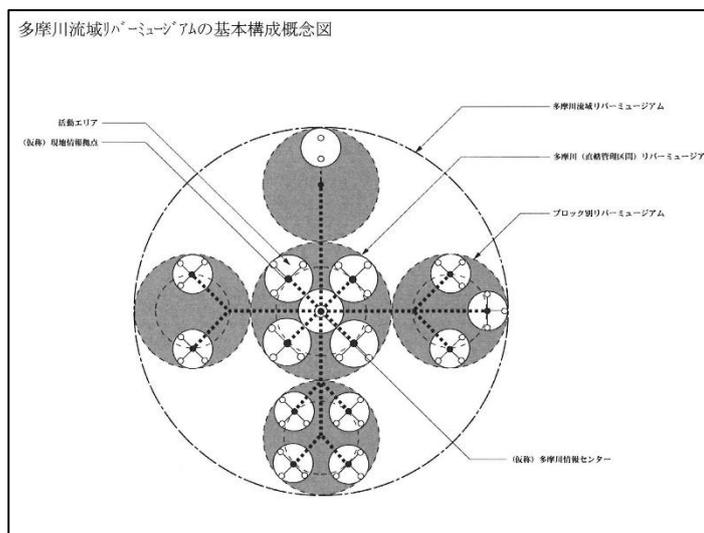
玉川上水・分水網関連遺構 100 選は、玉川上水系の水流の重要性と玉川上水・分水網がどのように使われ、自然・歴史文化を育んできた痕跡を示すものである。

このような意味で、玉川上水と分水網（痕跡も含む）を基礎的な情報ネットワークとするエコミュージアム的なシステムを構成しているとみることができる（図表 4-5, 6 参照）。

このような観点から玉川上水・分水網関連遺構 100 選をとらえ、今後地域ごとに関連遺構の展示・解説を行い、エコミュージアム的な展開を促すことにより多くの市民を巻き込んだ玉川上水・分水網保全再生と利活用のシステムをつくることを目指したい。このことはまた、玉川上水系の保全再生に大きく寄与すると考えられる。



図表 4-5 エコミュージアムの概念 出典「エコミュージアムの概念」大原一興 1996 に加筆



図表 4-6 多摩川流域リバーミュージアムの構成

出典：国土交通省京浜河川事務所

②玉川上水・分水網とエコミュージアムへの展開

玉川上水・分水網のエコミュージアムへの展開には、分水網図と関連遺構に関する基礎的なテキストが不可欠となる（図表 4-7 参照）。また、関連遺構が比較的多く集まっている地域を歴史文化の拠点としながら、関連遺構と分水を解説する拠点の形成が望まれる。このような拠点として周辺の公民館、図書館等と連携した活動が望まれる。

これらの地域の拠点と玉川上水と分水網（痕跡を含む）のネットワークすることにより広大な“玉川上水・分水網のエコミュージアム”展開が可能となる（図表 4-8 参照）。

すでにこの活動はいくつかの地域で始動しており、今後の地域連携への試みも始まりつつある（図表 4-9 参照）。

2018年度 市民が選ぶ玉川上水・分水網関連遺構 100選（分水）
遺構番号 No.99 名称 三田用水・白金台三丁目築樋遺構



項目	概要
区画・水系	三田用水 久留島1口
推薦団体	渋谷川・水と緑の会
所在地	渋谷区白金台3丁目12-6
分類	1. 水路構造物
指定等	
概要	



内務省地理院明治20年（1887）「白金・三田」5千分の1



陸軍測量部 明治42年（1909）「品川」1万分の1

淀橋台地の西縁を辿りながら南下した三田用水は、目黒駅前ではほぼ直角に曲がり白金台へと流れる。この辺りの地形は、白金台3丁目先の高輪台の境界でやや低くなっている。このため、盛り土した堤の上に水路を築いて流れを通した。

築樋遺構は大谷石の堤の上に作られた水路の垂直の断面で、地域住民の熱意と開発者の英断によりかろうじて保全されたもの。一部レンガも使用したコンクリート製のT字型水路で中が左右に仕切られてる。明治20年（1887）の地図（内務省地理院5千分の1「白金・三田」）によると、白金台3丁目辺りには南に向かう久留島上口（下大崎村、北品川宿）と北の久留島上口（今里村）の2系統の分水路が整備されていた。久留島上口の南側では水車を3台回し低地に流れ出していたようすが読み取れる。三田川の本流は高輪台駅近く（白金猿町）まで流れ、南の北品川を下って目黒川に注いでいた。

この築樋断面は三田上水と分水口の様相を伝える貴重な遺構であるが、まだ詳細な調査は実施されていない。



三田用水・白金台3丁目遺構（下流から上流を見る）

図表 4-7 関連遺構の基礎的テキストの事例

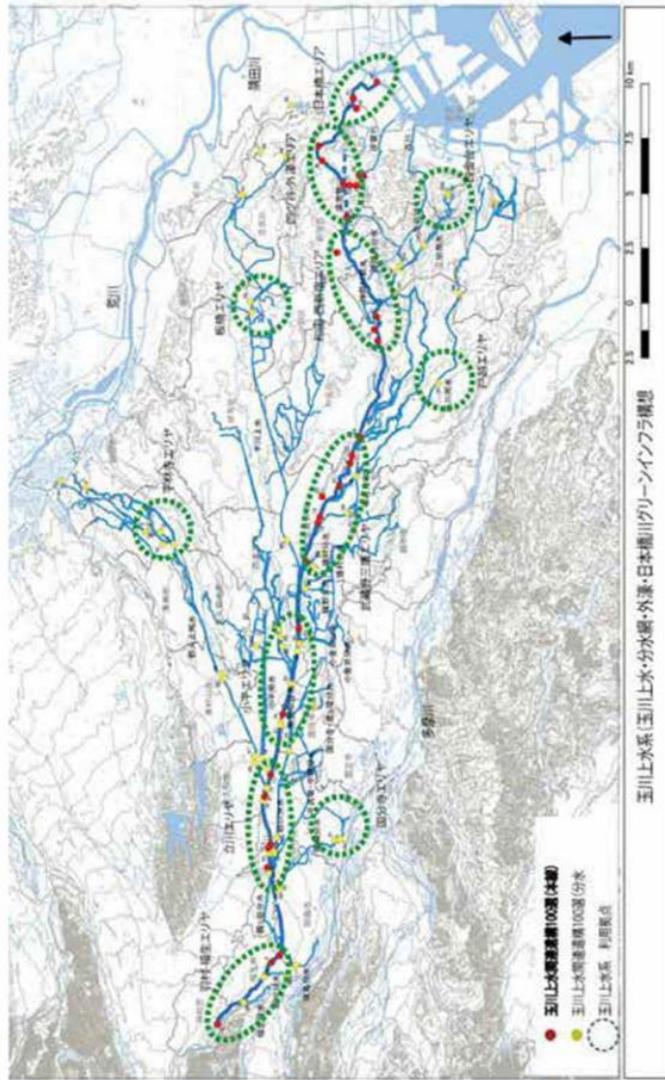
- 玉川上水路の構造は江戸時代の閉鎖管理されて構造を現在まで受け継いでいる。このために、深く危険で水路部分は柵で閉鎖されている。
- 将来の東京の環境防災水利の役割を確定し流量を決めることにより、水に触れることができる開放的な水路として再整備することができる。
- 関連遺構等と連携することにより「水と緑の回廊」の形成が可能となる。
(関連遺構調査ブロックごととフィールドミュージアム展開の可能性検討へ)



玉川上水・三鷹駅上流：暗渠と親水
水路整備の試み



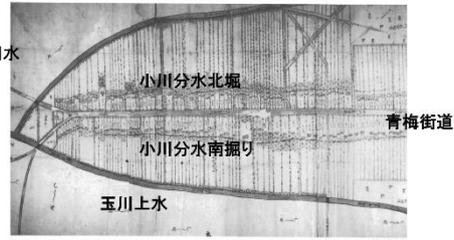
イギリス運河網の復元と博物館の整備
1962年 British Water Ways を設立。運河約 3500 km の復元に着手。2012 年に Canal & River Trust へ移管し管理。



図表 4-8 玉川上水域のエコミュージアムの展開イメージ 水路網と関連遺構・拠点の形成

78. 青梅街道沿いの 小川分水と新田開発

野火止用水



新田開発と地割り(1674頃小川村絵図)



小川分水の南北分岐水門



小川分水南堀

小川分水の青梅街道南北への分岐水門がある。明暦2年(1656)岸村(現武蔵村山市)の小川九郎兵衛は新田開発を願い、用水として玉川上水に1尺(30cm)四方の樋口を設け分水することを願い出た。小川新田(後の小川村)の誕生である。(新田開発と地割小川絵図参照)

小川分水は当初、東小川橋付近を取り入れ口として十二小通りに沿って北上、青梅街道の南北に分かれ、青梅街道に平行して流された。小川新田の開発による分水と短冊形の農地と屋敷林は小平の原風景である。現在の取り入れ口は、小川橋下の新堀用水から分水し、彫刻の谷緑道を経由して流れる。多摩川の河川水が今も通年流れている。

(一緒に歩きましょう)

エコ・ミュージアム小平



図表 4-9 小平市におけるエコミュージアムの試み (第4回シンポジウム資料)

玉川上水・分水網関連遺構 100 選の評価と冊子・展示資料等の作成

(研究助成・一般研究 VOL. 4 2 -NO. 2 5 0)

著 者 辻野 五郎丸

発行日 2020年12月

発行者 公益財団法人 東急財団

〒 150-8511

東京都渋谷区南平台町5番6号

TEL (03) 3477-6301

<http://foundation.tokyu.co.jp>